

平成 29 年度（2017 年度）

箕面子どもステップアップ調査結果報告
（その 1）

- 全国学力・学習状況調査
- 箕面市体力・運動能力・運動習慣等調査

平成 29 年（2017 年）11 月

箕面市教育委員会

目次

箕面子どもステップアップ調査の概要	1
-------------------	---

全国学力・学習状況調査の結果分析について

全国学力・学習状況調査について	7
平成29年度全国学力・学習状況調査〈概要〉	9
平成29年度全国学力・学習状況調査〈概要〉小学校国語AB	11
平成29年度全国学力・学習状況調査〈概要〉小学校算数AB	13
平成29年度全国学力・学習状況調査〈概要〉中学校国語AB	15
平成29年度全国学力・学習状況調査〈概要〉中学校数学AB	17
箕面市の児童生徒の「学習状況調査」結果から	19

体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析について

平成29年度箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査	25
各種目結果の学年別経年比較	
1年（小1）	28
2年（小2）	29
3年（小3）	30
4年（小4）	31
5年（小5）	32
6年（小6）	33
7年（中1）	34
8年（中2）	35
9年（中3）	36
運動習慣等調査の結果から	37
運動習慣等調査と体力合計点との関係	39
箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査 まとめ	41

2 箕面子どもステップアップ調査内容

実施の経過

平成19年度から全校で始まった「全国学力・学習状況調査」は、平成22年度(2010年度)・平成24年度(2012年度)と抽出校で調査を実施しました。しかし、本市では抽出ではなく全校で取り組む必要があると考え、市として全校で調査を実施しました。

平成23年度(2011年度)は、東日本大震災のため中止となりましたが、平成25年度(2013年度)からは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、再度、国として全校で実施しました。今年度も引き続き、全校が参加する悉皆調査により実施しました。

調査の目的

- (1) 箕面市教育委員会は、市内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校は、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、児童生徒一人ひとりへの教育指導の充実や学習状況の改善などに活用する。
- (3) 箕面市教育委員会、学校は、上記(1)(2)の取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

学力調査

- ▼学年ごとに子どもたち一人ひとりの各教科の到達度を把握・分析し、子どもたち一人ひとりに応じた着実な学力の向上を図ります。
- ▼調査結果を活用し、各学年の年間指導計画を立て、継続性のある学習指導を行うとともに、教員の指導力・授業力の向上を図ります。

内容

(1) 全国学力・学習状況調査

【6年生(小6)】 国語 A・B、算数 A・B

【9年生(中3)】 国語 A・B、数学 A・B

問題Aは、主に知識・理解に関する問題

問題Bは、主に活用に関する問題

(2) 箕面学力調査

【1～2年生(小1～小2)】 国語・算数

【3～6年生(小3～小6)】 国語・社会・算数・理科

【7～8年生(中1～中2)】 国語・社会・数学・理科・英語

なお、国語と英語は、リスニング(聞き取り)調査も実施

※各教科とも11月までに学習した範囲で、各学年における各科目の到達度を調査

(3) 英検 IBA

【9年生(中3)】 英検3級レベルを実施

体力調査

▼子どもたち一人ひとりの発達段階に応じた基本的な運動能力を調査し、基礎体力の向上を図ります。

▼日頃の運動習慣等を把握し、学校での様々な取り組みにつなげるとともに、家庭や地域と連携して課題の改善を図ります。

内容

(1) 箕面体力・運動能力調査……「全国体力・運動能力等調査」と同時に実施

◎調査種目

【1～3年生(小1～小3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ

【4年生(小4)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ・反復横とび・20m シャトルラン

【5～9年生(小5～中3)】 立ち幅とび・50m 走・ソフトボール投げ(中学生はハンドボール投げ)・反復横とび・20m シャトルラン・握力・上体おこし・長座体前屈

(2) 運動習慣、生活習慣等に関するアンケート調査……全学年で実施

生活状況調査

▼子どもたちの学習習慣、ご家庭や学校での生活状況をアンケート形式で調査し、自尊感情*などの向上及び学習課題や生活課題の改善を図ります。

内容

- ・ 「自尊感情」等の自己認識、「規範意識」や「思いやり」等の社会性、学級環境、生活や学習の習慣等の調査
- ・ 「いじめ」に対する子どもたちの意識・状況も調査

※自尊感情…自分自身に対する肯定的な感情。自分で自分自身を価値ある存在だとする感情。

3 報告の概要

この報告は、ステップアップ調査のうち、4月の実施した全国学力・学習状況調査、及び5月から6月にかけて実施した箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査の市全体の結果の概要です。

各学校では、それぞれに「全国学力・学習状況調査概要版」を作成し、保護者に報告します。

4 箕面市の指標と目標値、実施済みの一部結果

本市では、児童生徒一人ひとりの学力・体力・生活状況を継続的に把握し、教育指導の充実や学習状況・生活状況の改善にむけた取り組み結果の検証軸として、以下の指標と目標値を設定しています。

□

平成29年度(2017年度)の目標値と結果

	箕面学力調査の結果	校種	学年	教科	目標値	箕面市	結果※
1	<指標> 全国学力・学習状況調査の学力調査の平均正答率 <目標値> 全国トップの都道府県の平均正答率を上回る。	小学校	6年	国語A	80.0	77.0	●
				国語B	64.0	60.0	●
				算数A	85.0	81.0	●
				算数B	53.0	50.0	●
		中学校	3年	国語A	82.0	78.0	●
				国語B	78.0	72.0	●
				数学A	73.0	68.0	●
				数学B	54.0	50.0	●
	学習状況・生活状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※	
2	<指標> 家庭学習の時間に関わる質問項目の回答結果 小学生：1時間以上 中学生：2時間以上	小学校	3年	41.9%	2学期に実施		
			4年	47.6%			
			5年	64.3%			
			6年	66.6%			
		中学校	1年	41.7%			
			2年	43.1%			
			3年	76.7%			
	学習状況・生活状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※	
3	<指標> いじめのサインに関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年		2学期に実施		
			2年				
			3年				
			4年				
			5年				
			6年				
			小学校平均				82.0%
		中学校	1年				
			2年				
			3年				
中学校平均	95.0%						
	学習状況・生活状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※	
4	<指標> 自己肯定感に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年		2学期に実施		
			2年				
			3年				
			4年				
			5年				
			6年				
			小学校平均				85.0%
		中学校	1年				
			2年				
			3年				
中学校平均	80.0%						

	英検IBA	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
5	<指標> 英検3級程度の力	中学校	3年	80.0%	2学期に実施	
6	箕面市体力・運動能力、運動習慣等調査	校種	学年	平均超えの種目数 ／全種目数	達成率	結果※
	<指標> 全8種目それぞれの男女別学年平均値	小学校	1年	0 / 6	0.0%	●
	<目標値> 全学年・全種目で全国平均値を上回る。		2年	0 / 6	0.0%	●
			3年	2 / 6	33.3%	●
	■種目 (1)握力 (2)上体起こし (3)長座体前屈 (4)反復横とび (5)20mシャトルラン (6)50m走 (7)立ち幅とび (8)ボール投げ(小:ソフトボール 中:ハンドボール)		4年	2 / 10	20.0%	●
			5年	1 / 16	6.3%	●
			6年	2 / 16	12.5%	●
	※男女別の集計ですので、各学年とも種目数は2倍 になっています。	中学校	1年	1 / 16	6.3%	●
			2年	4 / 16	25.0%	●
		3年	1 / 16	6.3%	●	
7	学習状況・生活状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
	<指標> 学級環境に関わる全質問項目の回答結果 (肯定的回答率)	小学校	1年	/	83.0%	2学期に実施
			2年			
			3年			
			4年			
			5年			
			6年			
		小学校平均				
	中学校	1年	/	86.0%		
2年						
3年						
		中学校平均				
8	学校生活適応状況調査	校種	学年	目標値	箕面市	結果※
	<指標> 全学年での不登校(傾向)児童・生徒の千人率	小学校	1年	0	年度末に集計	
			2年	2.5		
			3年	0.9		
			4年	1.7		
			5年	5.2		
			6年	4.3		
		中学校	1年	12.2		
			2年	35.7		
3年	17.7					
		平均値	9.1			

※ 結果の欄について、「◎」は目標達成、「●」は未達成を表しています。

■ 全国学力・学習状況調査の結果

【結果】

学力調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に国語と算数・数学の2教科で行われ、それぞれ基礎的な知識を問う問題Aと、知識を活用する力を問う問題Bに分かれています。

小学校は、全ての教科で全国平均及び府内平均を上回る結果となりましたが、中学校の国語は、府内平均は上回りましたが全国平均と同等の結果でした。

【取組の経過】

調査ごとに結果を分析し公表してきました。分析で明らかになった課題については、各学校で子どもたちの実情に応じて取組を進めてきました。また、学力向上には、授業改善が不可欠であ

るとの考えのもと、平成 25 年度より秋田県由利本荘市と盛んに交流することで学んだことや、授業研究を通して「箕面の授業の基本」を策定し、平成 26 年度から市内全校で実施しています。

【分析】

(1)今年度の全国トップの都道府県と箕面市の全国学力調査の結果を比較すると、小学校では国語 B の「目的や意図に応じて話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題」の正答率が、15 ポイント以上、箕面市の子どもたちが低いという結果が見られました。中学校では、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題」の無回答率が箕面市では 14.7 ポイントであるのに対し、秋田県では 7.7 ポイントという結果でした。また、「相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す問題」の正答率が、秋田県に比べて 7.8 ポイント低いという結果が見られました。小学校・中学校ともに、共通して「相手の意見を受けて自分の考えを書く」ことに課題があることがわかりました。学習状況調査でも、「原稿用紙に感想文や説明文を書くことが難しい」と回答している子どもたちがが全国平均よりも多いことがわかりました。日々の授業で、「相手の言いたいことは何か」「自分の考えとどこが違うか」を子どもたちが主体的に考える活動が不十分であったと考えられます。

(2)調査結果の分析で明らかになった課題を焦点化し、その課題の解決のため具体的な目標を立て、達成のための指導内容や指導方法を全教職員で共有し、子どもたちの学力の状況をきめ細かく把握しつつ、日々の授業で継続的に地道な取組を進めていきます。

■ 体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

【結果】

1年生から9年生まで男女別で調査した種目の総数は、108 種目です。その内、全国平均を上回った種目数は 12 種目で、全体の 11.3%でした。全学年、全国平均を上回るという目標は、達成できませんでした。

【取組の経過】

本市の体力が全国を下回ることが明らかになったときから、体力向上にむけた計画を策定してきました。その一環として、体力向上用具の配布や、体力向上ボランティアなどの取組も行ってきました。さらに、本年度は、体力向上モデル校を指定し、体力向上の取り組みを進めているところです。

【分析】

(1)全体的に全国平均に比べて低い結果が見られました。中でも子どもが初めて実施した種目は、より低い傾向があり、様々な動きの経験が不足していることが考えられます。また、運動能力の向上には日常的に体を動かす習慣は大切ですが、体力調査と同時に実施した運動習慣調査で、本市の子どもたちは運動する機会が全国に比べて少ないことも明らかになっています。日常の運動時間が少ないことも体力向上につながらない要因の一つと考えられます。

(2)学校では、体力向上に向けた行事や子どもたちの主体的なイベント等の活動も行われています。日々の体育の授業で、様々な運動を経験させたり運動量を確保したりするとともに、遊びの中でも体を動かしたいと思えるような運動への意欲を高め、行事やイベントとの関連を図ることで体力向上につなげていきます。また、体力向上モデル校の実践を各学校に広げていきます。

平成29年度(2017年度)箕面子どもステップアップ調査 全国学力・学習状況調査について

1 実施日

平成29年(2017年)4月18日(火曜日)

2 調査対象

市内公立小学校6年生全児童及び、中学校3年生全生徒

3 調査内容

学力状況調査

学力状況調査(小学校6年生:国語A・B、算数A・B)

学力状況調査(中学校3年生:国語A・B、数学A・B)

問題Aは、主に知識・理解に関する問題

問題Bは、主に活用に関する問題

児童学習状況調査及び生徒学習状況調査

4 参加人数

小学校6年生:14校 1,233人

中学校3年生:8校 1,126人 計2,359人

5 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの学力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの学力向上に向けて連携した取組につなげる。

6 公表の方法

- (1) 本市の調査結果や分析結果については、平均正答率等を活用し文書等により説明する。
- (2) 個々の学校名を明らかにするなど、学校間の過度の競争等につながるおそれのある公表は行わない。
- (3) 各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により説明する。

7 公表の手段

- (1) 教育委員会
教育委員会ホームページ
- (2) 各学校
 - ①各校の実情に応じて「学校（学年）だより」などで説明
 - ②学校協議会、懇談会などで説明

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果

小学校 <平均正答率の状況> ()内の順位は、国が提供した整数の平均正答率から本市が導き出したもの。

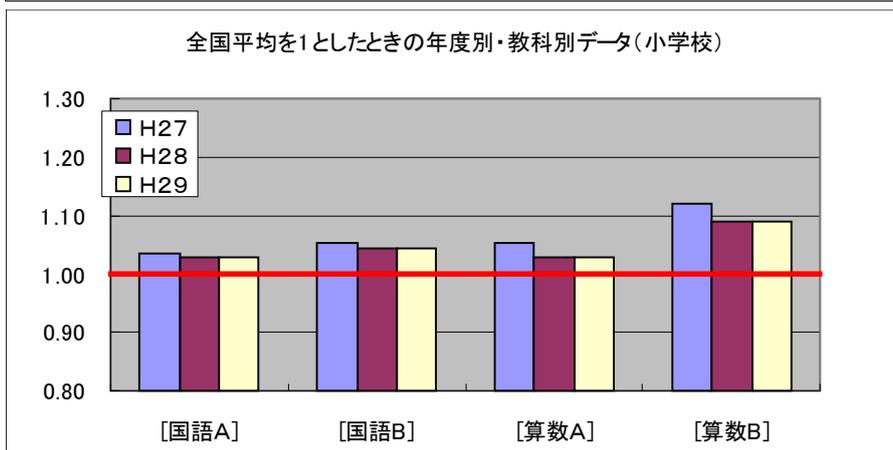
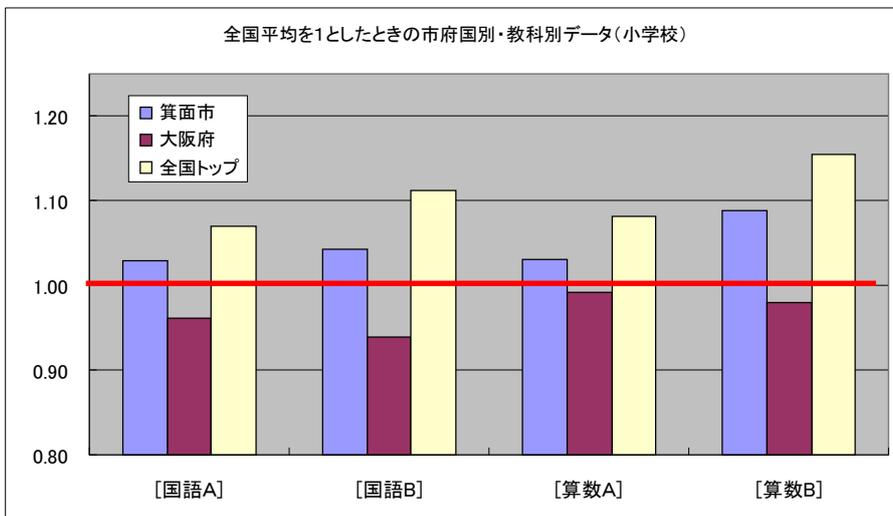
学校名	[国語A]	[国語B]	[算数A]	[算数B]
箕面市	77.0(6)	60.0(4)	81.0(7)	50.0(3)
大阪府	72.0(47)	54.0(47)	78.0(28)	45.0(28)
全国	74.8	57.5	78.6	45.9
都道府県全国トップ	80.0	64.0	85.0	53.0
都道府県名	秋田	秋田・石川	石川	石川

<全国平均を1としたときの市別・教科別データ>

	[国語A]	[国語B]	[算数A]	[算数B]
箕面市	1.03	1.04	1.03	1.09
大阪府	0.96	0.94	0.99	0.98
都道府県全国トップ	1.07	1.11	1.08	1.15
都道府県名	秋田	秋田・石川	石川	石川
都道府県トップに対する割合	96.3	93.8	95.3	94.3

注1：箕面市欄の()内は、全国都道府県に置き換えた場合の順位。全国は公立の平均。以下同じ。

注2：問題Aは基本的な知識を、問題Bは知識を活用する力を問うもの。



中学校

<平均正答率の状況> ()内の順位は、国が提供した整数の平均正答率から本市が導き出したもの。

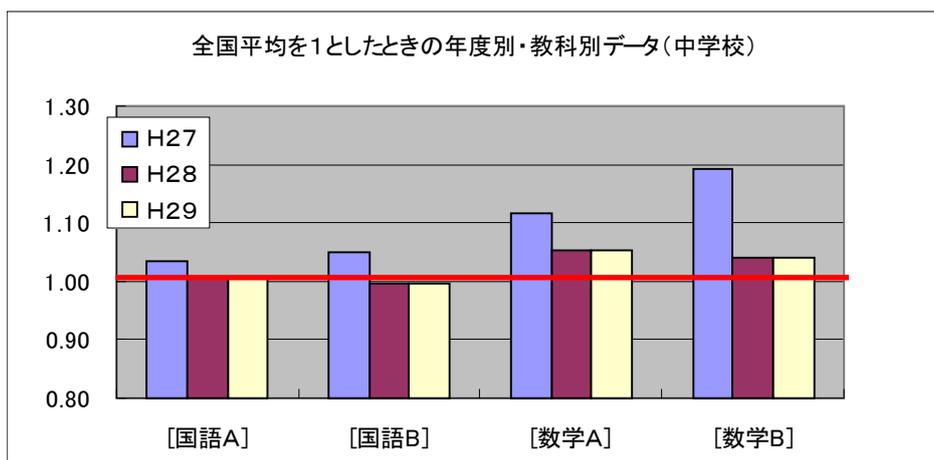
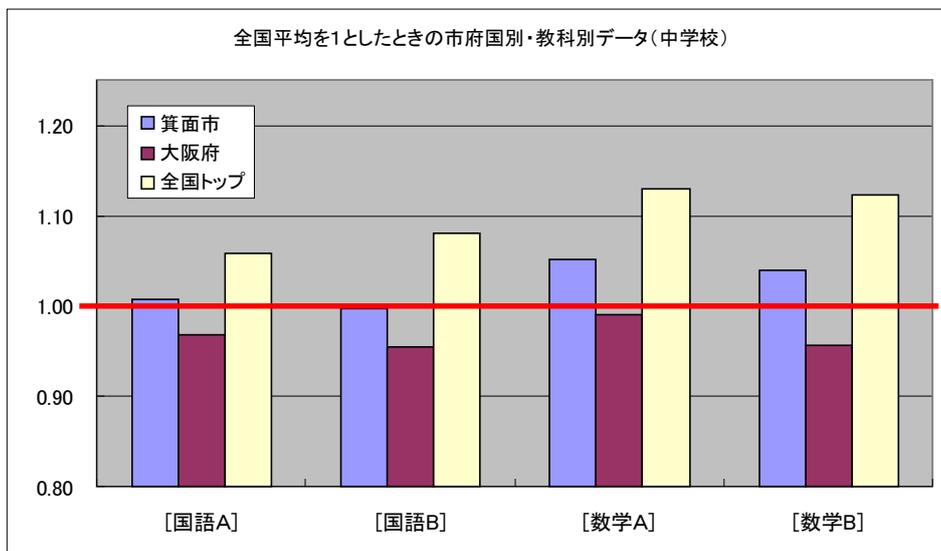
学校名	[国語A]	[国語B]	[数学A]	[数学B]
箕面市	78.0(12)	72.0(21)	68.0(3)	50.0(5)
大阪府	75.0(46)	69.0(47)	64.0(23)	46.0(39)
全国	77.4	72.2	64.6	48.1
都道府県全国トップ	82.0	78.0	73.0	54.0
都道府県名	秋田・石川・福井	秋田	福井	福井

<全国平均を1としたときの市別・教科別データ>

	[国語A]	[国語B]	[数学A]	[数学B]
箕面市	1.01	1.00	1.05	1.04
大阪府	0.97	0.96	0.99	0.96
都道府県全国トップ	1.06	1.08	1.07	1.12
都道府県名	秋田・石川・福井	秋田	福井	福井
都道府県トップに対する割合	95.1	92.3	93.2	92.6

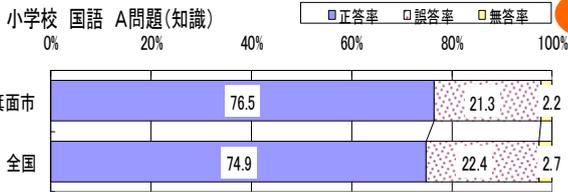
注1：箕面市欄の()内は、全国都道府県に置き換えた場合の順位。全国は公立の平均。以下同じ。

注2：問題Aは基本的な知識を、問題Bは知識を活用する力を問うもの。

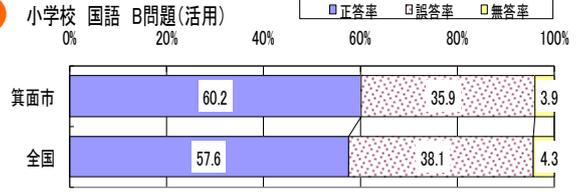


国語A (主に「知識」に関する問題)

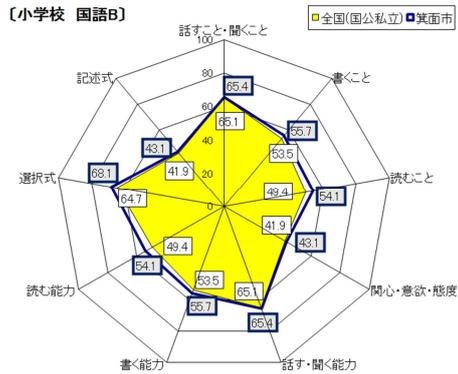
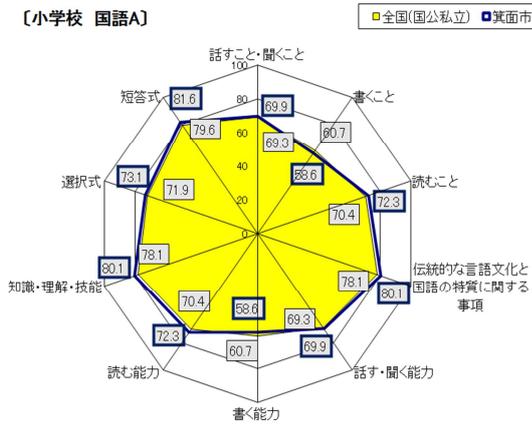
国語B (主に「活用」に関する問題)



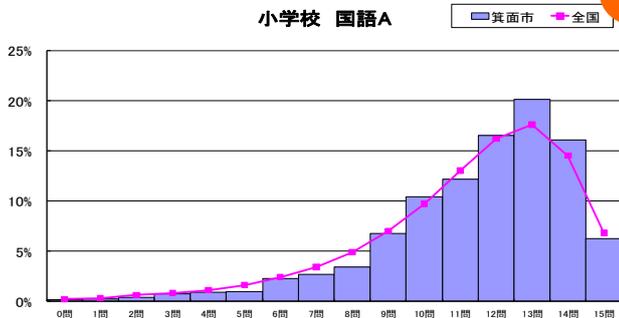
正答率



領域・観点 問題形式別正答率



正答数分布



国語 AB から見えてくること

国語 ABとも問題全体では、全国の平均正答率を上回りました。国語Aはほとんどの領域・観点・問題形式で、国語Bは全ての領域・観点・問題形式で全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

- 昨年課題があった「話すこと・聞くこと」は、ほぼ全ての問題において全国の平均正答率を上回りました。
- 国語Bの「読むこと」において良好です。特に登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題では全国の平均正答率を大きく上回り、「読むこと」における問題での無回答率は、全ての問題において全国平均を下回りました。
- △国語Aの「書くこと」は、全国の平均正答率を下回りました。特に「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」問題や「手紙の構成を理解し、後付けを書く」問題において課題がありました。
- △国語Bの「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」問題では、全国の平均正答率を2ポイント上回るものの、正答率が30%と課題がありました。

→課題があった問題(裏面に記載)

大岩さんの学級では、あまきみこさんが書いた「きつねの写真」という題名の物語を読み、それが考えたことについて、文章中の表現を示しながら話し合っています。次は、「物語の一部」と「話し合いの様子の一部」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

■物語のこれまでのあらすじ
 ごんざ山に、松ぞうじいさんという木こりが孫のとび吉と二人で住んでいました。そこに、山野さんという新聞記者がきつねの写真をとりに来ました。

※ 物語「きつねの写真」の掲載は省略いたします。

【話し合いの様子の一部】

横山 あまきみこさんの「きつねの写真」を読んで、心に残ったところはどこかな。
 原 (③を示しながら)「あたりの木がいつせいにざざっとゆれてよびました」というところで A 感じがすると思っただけだ。
 大岩 そうだね。 A ことといえば、松ぞうじいさんととび吉はきつねだったのかな。
 田中 二人を写したはずの写真にきつねが写っていたんだから、きつねだよ。
 原 (④を示しながら)「山野さんは、むかいあったふたりをばちりとうつしました」とあるでしょ。 A そうですね。それに、(⑤を示しながら)「き、きつねの写真だ」と書いてあるしね。
 横山 二人を写したはずの写真にきつねが写っているってことは、やっぱりきつねなのかな。
 大岩 きつねだよ。他にもきつねって考えられるところはあかな。
 田中 (②を示しながら)「ここで、松ぞうじいさんが「ついできなせえ」と言っているところがあるでしょ。私は、ここからもきつねってわかる気がするんだけど、どうかな。
 原 私もそう思う。松ぞうじいさんは、きつねだからきつねのすんでいた穴の場所を知っていて、案内できたんだよね。田中さんの言いたいことはそういうことではないのかな。
 田中 そうそう。
 横山 (①を示しながら)「ここにもあるよ。」「人間にうちとられたり」と書いてあるけれど、もし、松ぞうじいさんが本当に人間なら、「人間に」とか「うちとられた」とは言わないと思うから、松ぞうじいさんはきつねだと考えることもできるね。
 田中 そこからも、松ぞうじいさんがきつねだと考えられるね。他にも見つけたよ。
 B (話し合いが続く)

- 二 【話し合いの様子の一部】の中の~~~~~部ア・イの発言は、この話し合いの中で、それぞれどのような意図がありますか。最も適切なものを、次の1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 1 考えのもととなる文章中の表現を明らかにしようとしている。
 - 2 言葉の意味が理解できず、その意味を知ろうとしている。
 - 3 今まで出ていない考えを引き出そうとしている。
 - 4 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめようとしている。

【正答】ア：1 イ：4

この問題の正答率は全国平均を上回ってはいるものの、30%しかなく、3人に1人も正解していなかったんだ



この問題では、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることが求められているでござる！
 質問の意図を読み取るためには、回答者の発言にどのような意図が含まれているかに注目することがポイントでござる！

①【質問に対する回答の意図を捉える】
 質問に対して、相手がどのような回答をしているかを読み取る必要がある。

- ア 原さんの質問に対して、田中さんは、自分の考えの根拠となる叙述について説明している。
- イ 原さんの質問に対して、田中さんは「そうそう」と答え、原さんの理解が正しいことを認めている。

話の内容を明確に捉え、相手の意図を読み取るために！

- この問題のように、話の流れから質問の意図を捉える力は、日常生活でも大切です。そして、実生活では会話の中ですぐに次の質問を考えたり、相手の意図を読み取ったりすることが求められます。
- この話し合いの様子をもとにした問題のように、質問だけに注目するのではなく、回答者がどのような意図で質問者に回答しているかに着目する必要があります。
- 本や新聞などを読むとき、「筆者は何が伝えたいのだろう」「この登場人物は何が伝えたいのだろう」と考えながら読んでみましょう。

身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することに、全国と同じように課題が見られました。

5

月は、地球のまわりを回りながら、地球に近づいたり、はなれたりしています。月の大きさは実際には変わりませんが、月が地球に最も近づいたときに、最も大きく見え、地球から最もはなれたときに、最も小さく見えます。地球から見える満月を円とみて、最も大きく見えるときの見かけの直径を「最大の満月の直径」、最も小さく見えるときの見かけの直径を「最小の満月の直径」ということにします。

「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べたとき、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。

何を基準に比べればいいのか、イメージすることが大切です。この設問に回答するためには、いくつかの方法が考えられますが、例えば

①「最小の満月の直径」を1円玉の直径とした時に、「最大の満月の直径」に当たる値を計算

②その値が、100円玉と500円玉のどちらの硬貨の直径に近いのか、を判断

③そう判断した理由を記述

というステップを踏まなければなりません。

もとなる量は「最小の満月の直径 = 1円玉の直径」、その1.14個分（いくつ分）が「最大の満月の直径 = 求める硬貨の直径」（比べられる量）

(1) 省略

月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。
1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下のとおりです。

硬貨の種類とその直径		
1円玉	100円玉	500円玉
		
20 mm	22.6 mm	26.5 mm

(2) 「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。
また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを、言葉や式を使って書きましょう。

- 1 100円玉
- 2 500円玉

(正答例)
最大の満月の直径は $20 \times 1.14 = 22.8$ で、22.8 mm。
100円玉の直径との差は $22.8 - 22.6 = 0.2$ で、0.2 mm。
500円玉の直径との差は $26.5 - 22.8 = 3.7$ で、3.7 mm。
100円玉の直径との差の方が小さいので、100円玉の方が近い。

もとなる量、比べられる量、いくつ分、が何にあたるかしっかりとらえるでござる。



「説明する」力をつけるために！

- ・日常生活の事象を割合を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、判断した理由を数学的に表現したりする学習を充実させよう。
- ・示された割合（いくつ分）を基に、基準量（もとなる量）と比較量（比べられる量）の関係を捉えることができるようにしよう。
(日常生活にある「〇%増量」「〇%値引き」等のように、割合を表す数値をそのまま計算に用いることができない場面において、基準量と比較量の関係をもとに割合をとらえ直すことが大切です。)
- ・適切な判断のために、基準量、比較量、割合の関係を的確に捉え、判断の理由を数学的に表現できるようにしよう。
(示された情報と場面を図や言葉などで表し、数量の関係を的確に捉えることが大切です。)
- ・算数、数学は計算して一つの答えを出して終わり、という教科ではありません。数学用語を使い、物事を論理的に説明する教科です。こうした視点をもって、算数、数学に取り組みたいものです。

【B問題】

△課題が見られた問題

② 石井さんは、けん玉についてスピーチをします。次は石井さんがスピーチをするために読んだ【本の一部】、リハーサルで実際に話した【スピーチ】、リハーサル後に友達からもらった【意見1】【意見2】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【スピーチ】

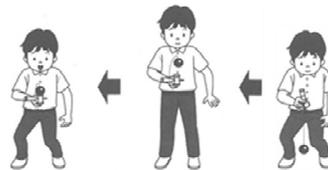
今日は、けん玉の「大皿」という技を取り上げて、技を上手に決めるコツについて説明します。(中略)もう一つのコツはひさをうまく動かすことです。ではひさに注目して観て下さい。【実演】三回目(中略)玉を受け止めるときのひさの動きも重要です。玉を受け止めるときは、私がやったようにひさを動かすとよいです。(以下略)

【意見2】

「今私がやったようにひさを動かすとよいです。」というところは、どのようにひさを動かすのかが分かりづらかったです。それに、なぜひさを動かすとよいかについても説明して欲しいです。



【本の一部】「大皿」という技について説明します。(中略)玉の動きに合わせてひさを曲げるの(中略)特に、皿で玉を受け止めるときには、皿と玉がぶつかるときの衝撃をやわらげる効果があるのです。



相手に上手く伝わっていない。どこがわかりにくかったのか。

問三 石井さんは、【意見2】を受けて、【スピーチ】の1線部を聞き手にわかりやすいようにことにしました。あなたならどのように直しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

【条件1】【本の一部】を参考にして、【意見2】にある「どのようにひさを動かすのか」と「なぜひさを動かすのか」が分かるように書くこと。

【条件2】「玉をうけ止めるときは」に続けて、四十字以上、八十字以内で書くこと。

【正答例】「玉を受け止めるときは」今私がやったように、玉の動きに合わせてひさを曲げるとよいです。なぜなら、皿と玉がぶつかるときの衝撃をやわらげる効果があるからです。」

補足説明の材料となる箇所「なぜひさを曲げるのか」の理由

「聞き手」「読み手」＝「相手」を意識して伝えよう

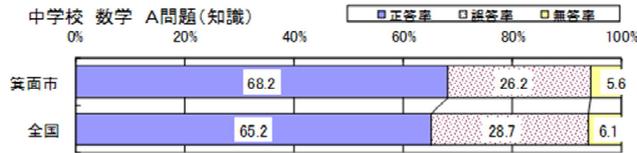
課題があった②を見てみると【条件1】の「なぜひさを動かすとよいのか」が分かるように書かれておらず誤答となっているケースがよく見られます。しかし、学習状況調査にある、「授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしているか」「授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけているか」という質問に対しては、肯定的な回答が全国平均よりも高い数値になっています。自分が考えたり書いた内容が、本当に相手の質問に答える内容になっているか、また、相手にとってわかりやすいものになっているかを普段から意識することが必要です。「質問に答えているつもり」「理由を伝えているつもり」になっていないか、相手の目線に立って考えることができる力をさらに伸ばしていきましょう。



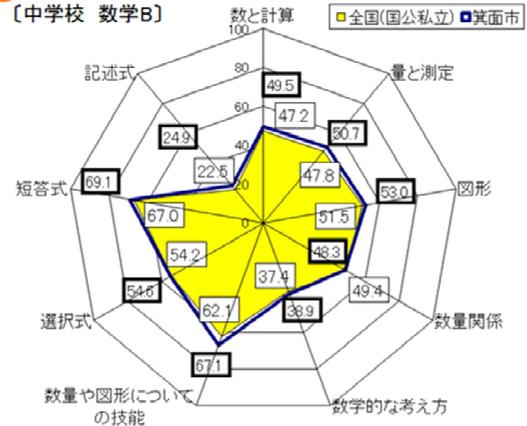
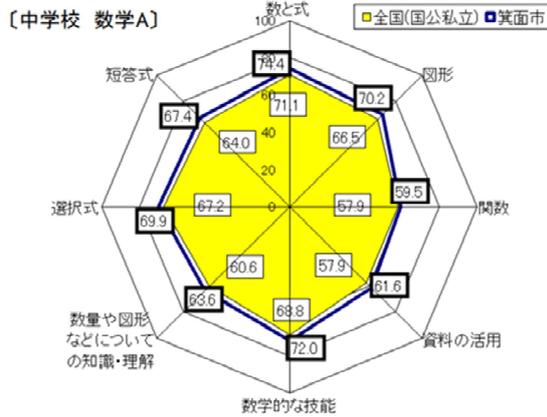
数学 A (主に「知識」に関する問題)

数学 B (主に「活用」に関する問題)

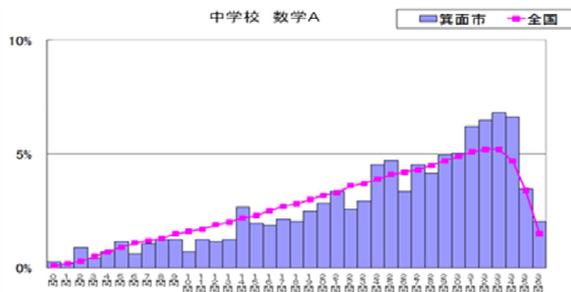
正答率



領域・観点
問題形式別



正答数分布



数学 AB から見えてくること

ほぼすべての領域、観点、問題形式において、全国の平均正答率を上回っており、本市の状況は概ね良好です。

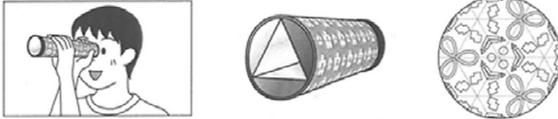
【数学A】すべての領域、観点、問題形式で全国の平均正答率を上回りました。15問中2問のみ全国の平均正答率を下回りました。
 ○円柱の体積を求める問題では、全国の平均正答率を大きく上回りました。(全国比+9.4ポイント)
 △長方形の縦の長さとの面積の関係を「…は～の関数である」と表現し、関数の意味理解を問う問題では、全国平均正答率よりはやや上回りますが(全国比+2.4ポイント)、市の正答率は23.0%と低い正答率にとどまりました。

【数学B】「資料の活用」の領域、「数量や図形などについての知識・理解」の観点以外は全て、領域、観点、問題形式で全国平均正答率を上回りました。
 △2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する問題では、全国平均正答率はやや上回りますが(全国比+2.0ポイント)、16.0%と低い正答率にとどまりました。(裏面に記載)
 △説明を要する次の問題では、いずれも正答率が20%以下で、全国平均正答率も下回りました。

- ・基準となる日から、ダムの貯水量が1500万m³になる日までに経過した日数を、与えられた表やグラフを用いて求め、その方法を説明する問題(全国平均正答率18.4%。本市正答率17.6%)
- ・「週当たりの運動時間が420分未満より420分以上の女子の方が、体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する問題(全国平均正答率17.6%。本市正答率17.2%)

2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することに、全国と同様に課題が見られました。

1 万華鏡は次のような筒状のおもちゃで、中に3枚の鏡を組み合わせた正三角柱が入っています。鏡が内側に向いているので、中をのぞくと、正三角柱の底面にある模様が周りの鏡に映って、美しい模様が見えます。



正三角柱の底面にある模様が図1である場合、図2のような模様が見えます。これは、隣り合う正三角形がすべて、共通する辺を軸に線対称になっているとみることができます。例えば、図3にある4枚の正三角形に着目すると、隣り合う正三角形は、共通する辺を軸に線対称になっていることがわかります。

図1



図2

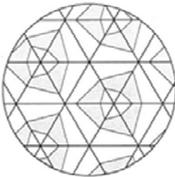
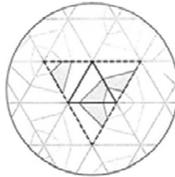


図3



図形の回転移動については、

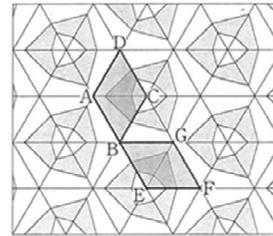
- ①回転の中心の位置
- ②回転の向き
- ③回転角の大きさ

をまず見出すのがポイントだよ。



(2) 前ページの図2の模様を図5のように広い範囲で考えます。図5の四角形ABCDの模様は、1回の回転移動で四角形GBEFの模様と重なります。四角形ABCDの模様は、どのような回転移動によって四角形GBEFの模様と重なるか書きなさい。

図5



この問題では

- ①四角形ABCDの点Bを回転の中心として、
 - ②時計回りに
 - ③120° 回転移動
- することを前提として見つけた上で、その結果「四角形GBEFに重なる」という結論を記述する必要があります。

誤答のうち、

- 「①②③の記述に誤りがある誤答」と、
- 「①と②については記述があるのに、③の記述がない誤答」が多かったとござる。



事象を的確にとらえ、用語を用いて表現しよう！

- ・事象の特徴を的確に捉え見通しをもちましょう。資料を用いて問題を求める方法を説明するためには、事象を的確にとらえ、こうすれば解が求められるだろうという見通しをもつことが大切です。その上で、求めるために具体的に用いる資料のどの部分をどう使うかを説明することが必要です。見通しをもつことは、どの問題を解く上でも大切なことなので、日ごろから習慣づけましょう。
- ・用語を意識して不足なく説明できるようにしましょう。
例えば、図形の回転移動については、①回転の中心の位置②回転の向き③回転角の大きさの3つについて述べる必要があります。事象の的確に表現するために必要な用語は何かを考え、それらを使う習慣をつけましょう。
- ・算数、数学は計算して一つの答えを出して終わり、という教科ではありません。数学用語を使い、物事を論理的に説明する教科です。こうした視点をもって、算数、数学に取り組みたいものです。

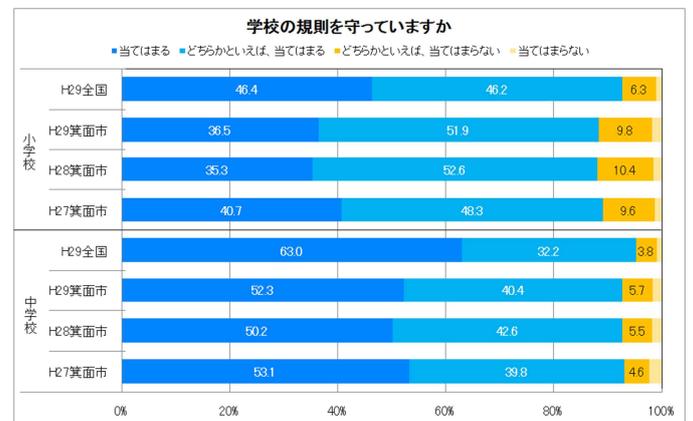
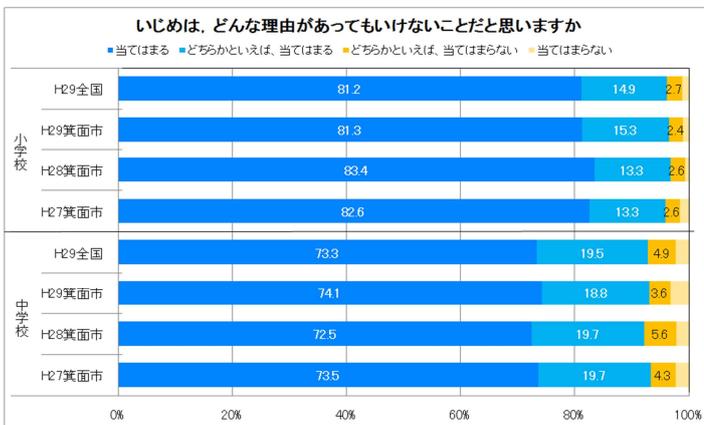
平成29年度箕面市児童生徒「学習状況調査」結果から

日々の積み重ねを力に、羽ばたく子どもたち

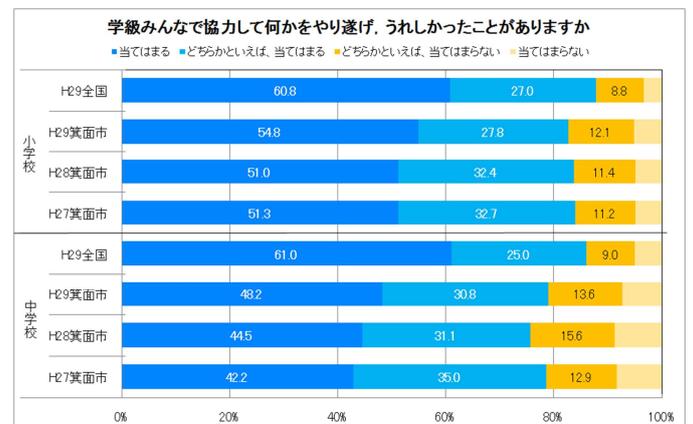
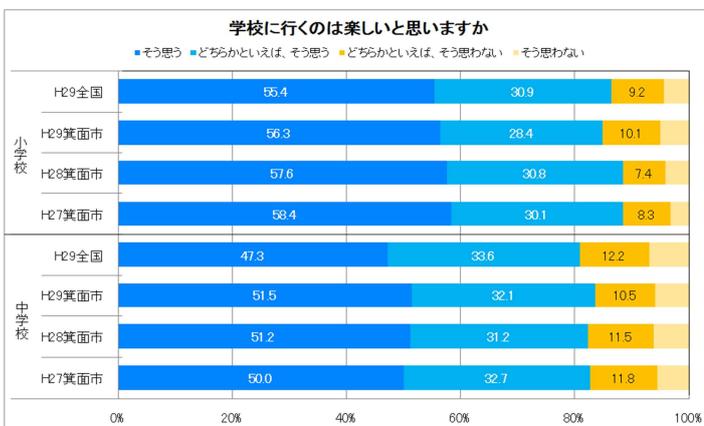
学習状況調査は、アンケート形式で児童生徒からの回答を求めるものです。学力状況調査の結果と関連がある学習状況の質問項目については、概ね良好な結果でした。肯定的な回答をする児童生徒の割合が全国と比べて低い項目がいくつかありますが、多くの質問項目について、肯定的な回答の割合が高くなってきています。特に生活習慣を問う項目や、チャレンジ精神を問う項目等は、例年同様いい結果となりました。日々の積み重ねを元に力をつけている子どもたちの様子が伝わってきました。以下、今回の調査結果から見える箕面の子どもの様子について、いくつかの視点に絞って考察します。



学校生活の様子

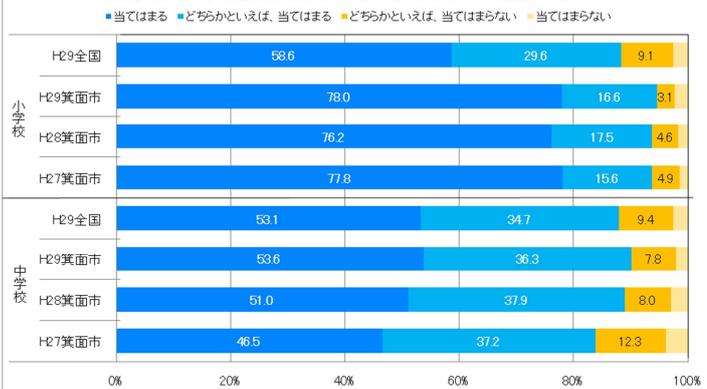


「いじめ」の防止や「学校の規則」を守ることに付いて、箕面市では今年、市内全ての小学校5年生・中学校1年生の各学級に弁護士を派遣します。法律の専門家である弁護士と、教育の専門である教師、さらにスクールカウンセラーが、それぞれの知識・経験からの視点、意見を交えて、法律的・人権的にいじめを予防する授業を実施し、いじめを未然に防げるよう取り組んでいます。

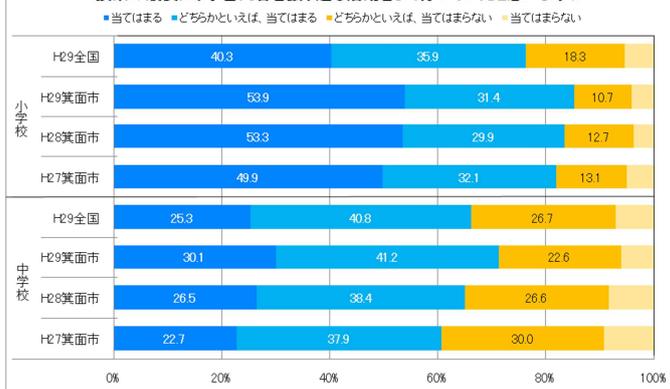


「学校に行くのは楽しいと思いますか」については、8割以上の児童生徒が肯定的な回答です。今後も、児童生徒一人一人に丁寧に対応し、気持ちよく登校できるよう対応していきます。「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」については、例年全国平均よりも低い結果がでています。個人だけではなく集団で協力することの大切さを感じられるような指導を今後も継続し

授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか



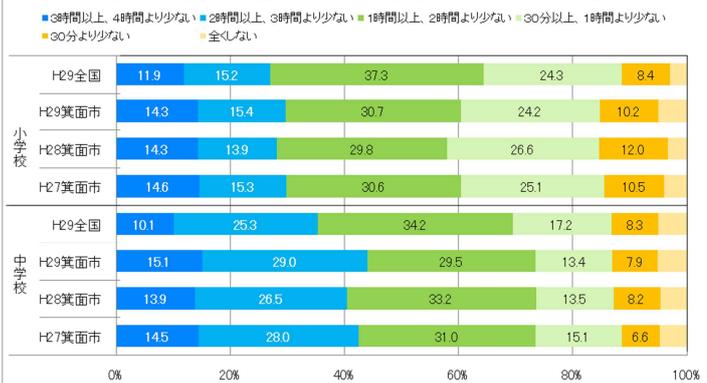
授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか



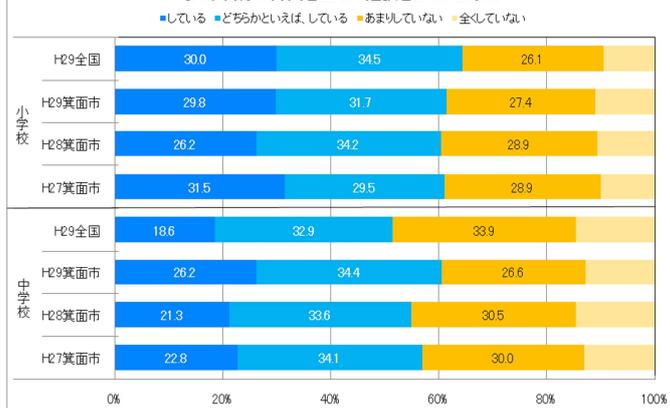
「授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」、「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」については、小学校で全国平均を大きく上回り、中学校も年々上昇しています。1回1回の授業が何を目標に行われているかを明示することで、児童生徒の理解を助け、また授業の最後に、自分自身の取り組み方、学習内容の定着を振り返ることで、主体的に学習する力を高めています。

家庭での学習

学校の授業時間以外、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

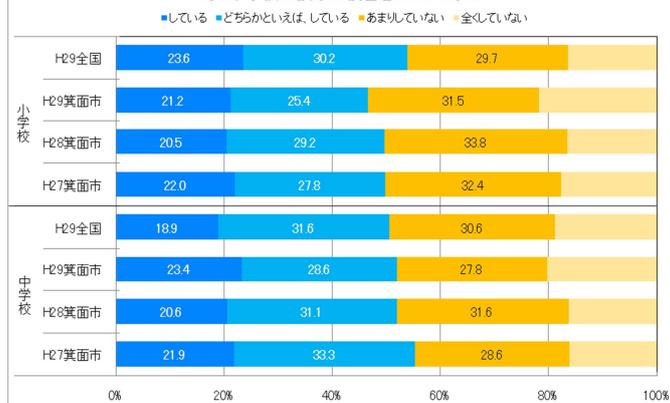


自分で計画を立てて勉強している子どもの割合は、中学校が全国と比べて高い傾向にあります。また、学校の授業以外の勉強時間が2時間以上の割合は、小中学校ともに全国と比べて高い傾向にあります。家庭学習の習慣をつけようとしてきた成果が表れてきていると考えられます。

家で、学校の授業の予習をしていますか



家で、学校の授業の復習をしていますか

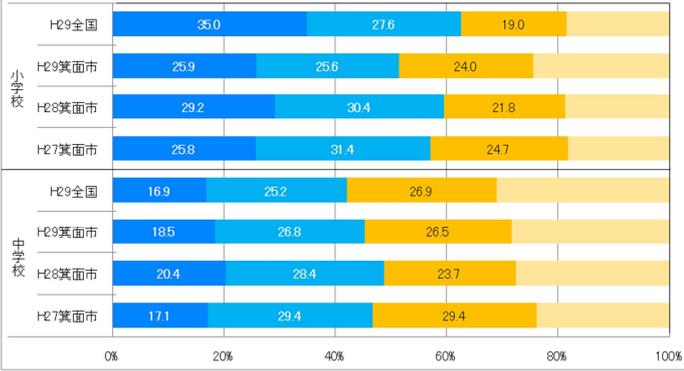


家で学校の授業の予習や復習をする割合は、中学校が全国と比べて高い傾向にありますが、小学校は全国と比べて低い傾向にあります。家庭での学習と言えば、宿題等で繰り返しのドリルなど出された課題をこなすことも少なくないですが、授業と家庭学習をつなげる予習の課題や、授業で学んだことを定着させるために自分で目標を決め、内容や時間等を計画的に取り組めるようにすることを大切にしてい

地域や社会との関わり

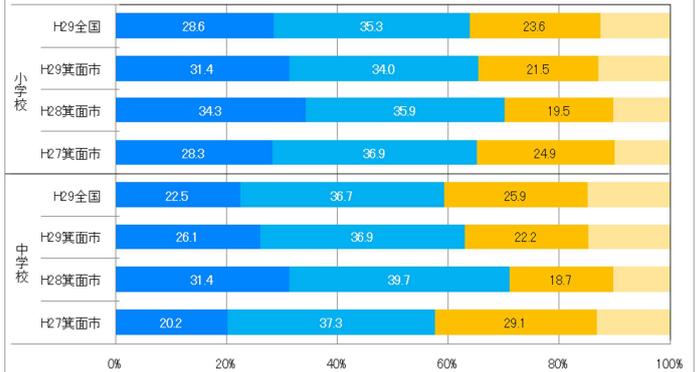
今住んでいる地域の行事に参加していますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



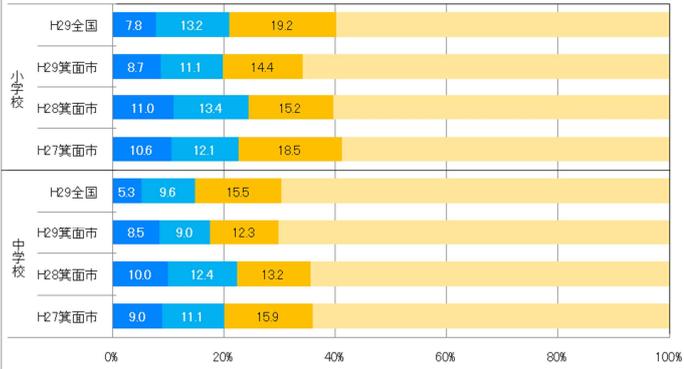
地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



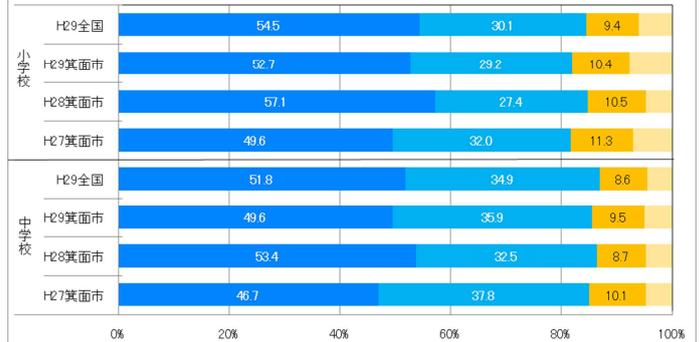
新聞を読んでいますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



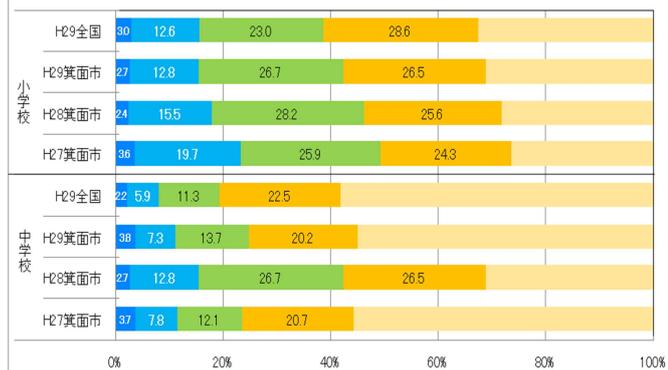
地域や社会の出来事に興味を持つ児童生徒の割合は、小中学校ともに全国と比べて高い傾向にあります。一方、地域の行事に参加している児童生徒の割合は、中学校は全国と比べて高い傾向にありますが、小学校は全国と比べて低い傾向にあります。また、ニュースを見ている児童生徒の割合は、小中学校ともに8割を超えており、社会への関心の高さがわかります。情報の入手方法は、新聞よりテレビやインターネットを活用している児童生徒が増加しています。

今後さらに地域の行事への参加を促し、自分の住む地域は自分たちで創るという気持ちを育んでいくと同時に、インターネット等の活用方法やマナーについては、今後一層子どもたちへの理解を図ってい

図書館利用について

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りるために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館どこへも行きますか

■たいてい週に4回以上行く ■週に1~3回程行く ■月に1~3回程行く
■年に数回程行く ■ほとんど、または、全く行かない

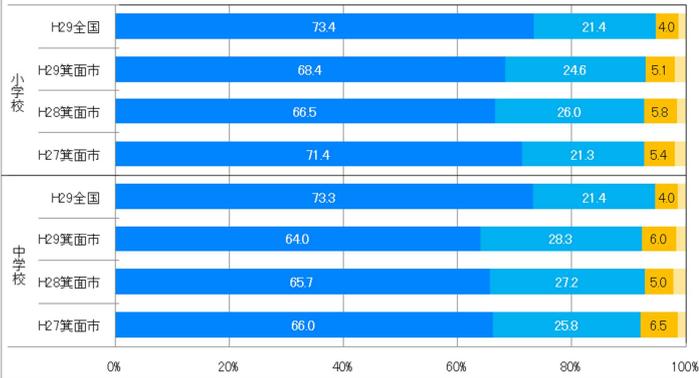


学校や地域の図書館に週4回以上行く割合は、中学校においては全国平均のほぼ2倍で、週・月に1~3回程行く割合も、小中学校共に全国平均より高くなっています。しかし図書館に、ほとんど、または、全く行かない子の割合は、小中学校共に昨年より増えています。市内の全学校図書館には司書が在駐し、図書館への関心を高め、本に親しむよう指導を行っています。「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」や「箕面手づくり紙芝居コンクール」等も活用し、これからも

自分自身について

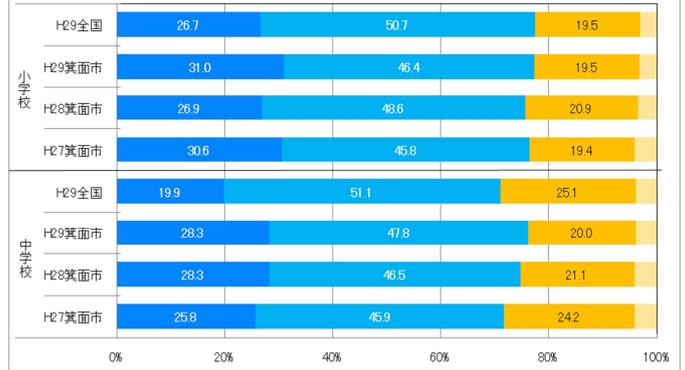
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



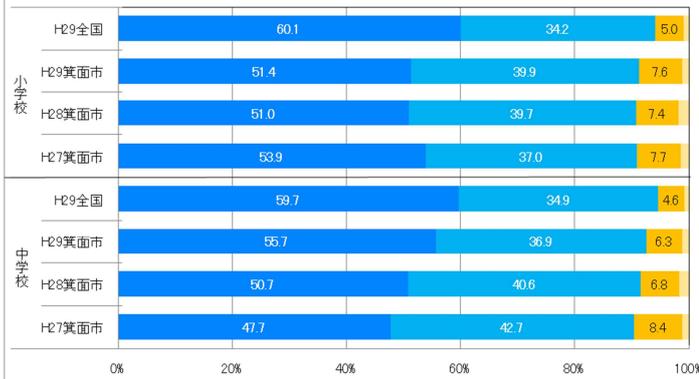
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



友達と話し合うとき、友達の話を最後まで聞くことができますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

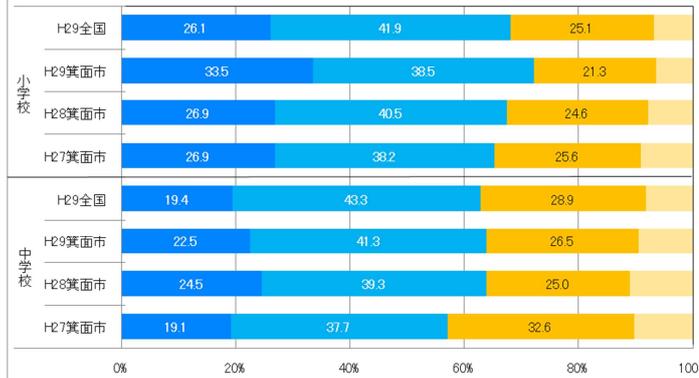


最後までやり遂げてうれしかったことがある割合は、全国より少し低いですが、小学校では昨年より上がりました。難しいことでも失敗を恐れず挑戦していると思う割合は、小中学校共に増え、中学校では全国平均を上回りました。成功体験や自信を持つことは、教科の成績アップにもつながります。一方、友達の話を最後まで聞く割合は全国よりやや低く、課題が残りました。これからも周囲とコミュニケーションをしっかりととりながら、様々なことに意欲的に挑戦してほしいと思います。

<国語>

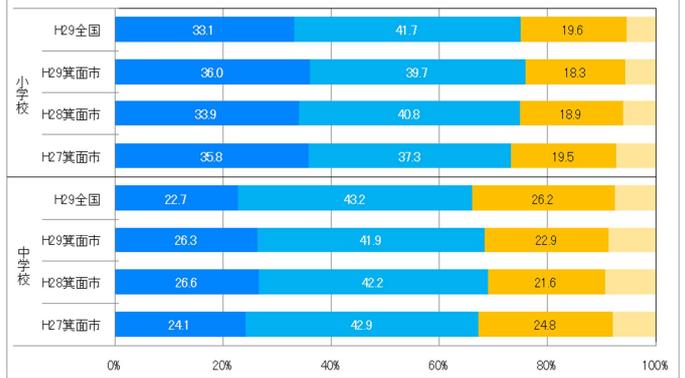
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



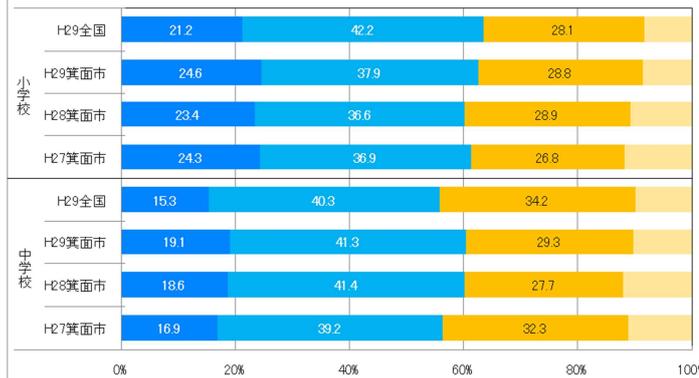
国語の授業で自分の考えを書き、考えの理由が多分よに気を付けて書いていますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



国語の授業で意見などを発表するとき、よく伝えるように話の組み方を工夫していますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

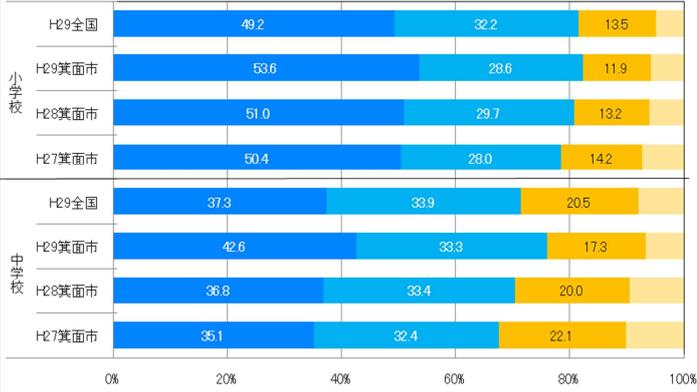


発表するとき、伝えるように話の組み方を工夫している子どもの割合は、特に中学校で年々上昇しています。目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりする子どもたちの割合や、国語の授業で自分の考えを書き、考えの理由が多分よに気を付けて書いている子どもたちの割合は、全国を上回っています。しかし、昨年度に引き続き箕面の子どもたちの課題として、全国学力・学習状況調査から「書く力」があげられます。授業や学習活動の中では、実感できている意欲を学力の向上につなげていくことが必

＜算数・数学＞

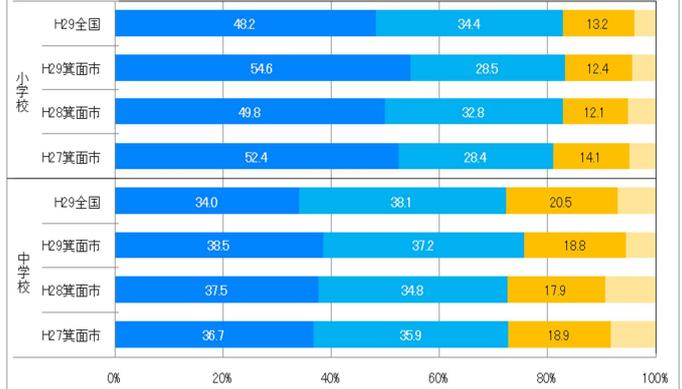
算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



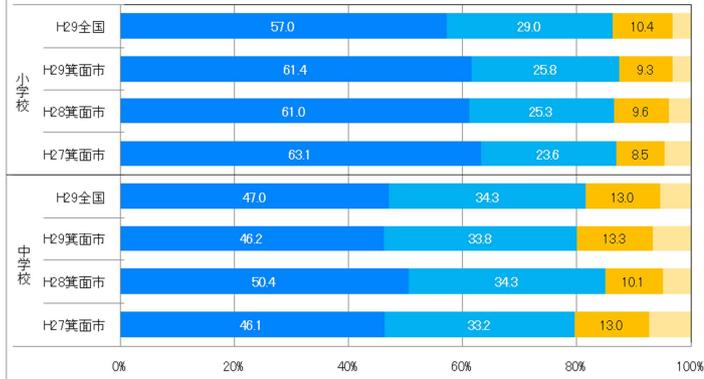
算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



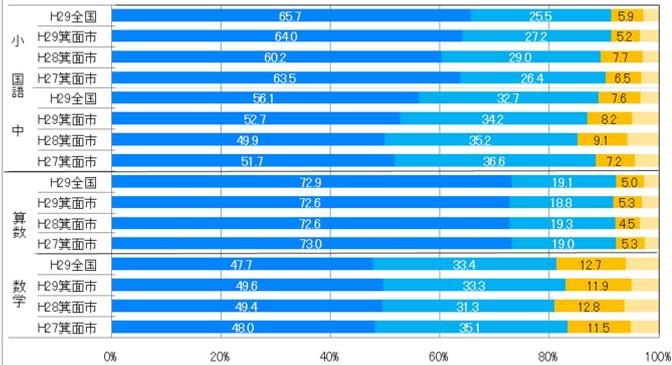
小中学校では、授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法を考える割合が年々高まっています。

授業では、公式やきまりを習うと、その根拠を理解するようにしている割合が、児童生徒とも全国より高く、特に中学校では年々高まっています。自分の考え方がわかるようにノートに書くことで、より理解が深まり、覚えるだけではなく、

＜授業・学習への関心＞

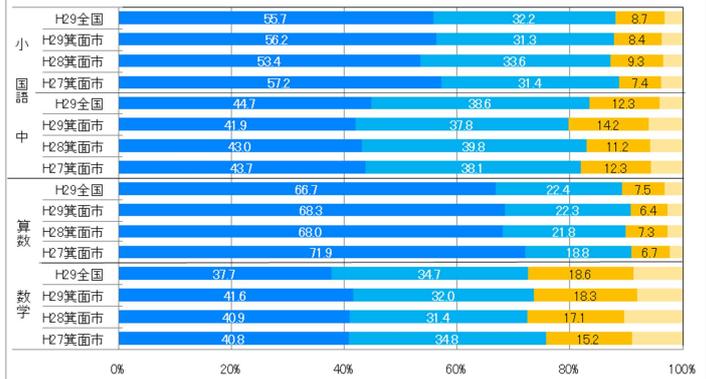
国語、算数・数学の勉強は大切だと思いますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



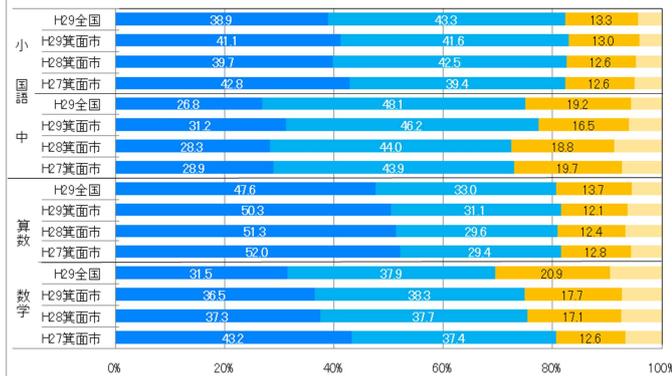
国語、算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



国語、算数・数学の内容はよく分かりますか

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない



国語は大切だと思う、また、社会に出たときに役立つという割合は、全国と比べてやや低い傾向です。小中学校の国語、算数・数学について、内容はよく分かるという割合は、全国より高い傾向にあります。

自分で考え、友達と共有しながら内容を理解していくことが大切です。学び合いの中で、その教科の大切さを実感したり、生活に役立つことを知

調査全体のまとめ

「いじめはいけない」と考える割合が、ここ数年低下傾向にあった中学校でも、昨年よりやや上昇し、小中学校共に全国平均を上回りました。いじめについての取り組みを続けていく中で、少しずつ成果が上がってきていると考えられます。すべての児童生徒がいじめはどんな理由があってもいけないことだと考えられるよう、毎日、そして長期の指導を学校、家庭、地域で進めていきます。また「学校の規則をまもっている」と答えた割合は昨年とほぼ同じで、全国よりやや低い結果となりました。いじめやルールの問題に主体的に取り組めるよう、これからも指導を続けていきます。

国語、算数・数学とも、児童生徒の肯定的な回答が多く見られました。特に小学校の国語については、どの項目もほぼ昨年度を上回っています。中学校では、数学の公式の根拠を理解するように努めたり、もっと簡単に解く方法がないか考える子の割合が増えました。一方、「地域の行事に参加する」割合は中学校では全国平均を上回っているものの、小学校では下がっています。自分の周りの地域や社会に関心を持ったり、関わりを持つ機会を、これからも増やしていく必要があります。

図書館をよく利用する割合は全国平均と同じか、やや高いものの、ほとんど、または、全く行かない割合も増え、本に対する姿勢が両極化する傾向が見られました。インターネットが盛んな時代ですが、本でなければできないこともたくさんあります。箕面市独自の取り組みをはじめ、本に触れる様々なきっかけをこれからも作っていきたいと思います。最後までやり遂げて嬉しかったと回答する割合は全国平均よりやや低かったです。小さなことでも成功体験を積み重ね、達成感を感じる回数を増やしていく工夫を、これからも一層考えていく必要があります。これらの取り組みは、自己肯定感のさらなる向上にもつながります。また、友達の話や意見を最後まで聞くことができると答えた割合もやや低く、他人の意見を聞く姿勢やコミュニケーション力などに課題が残りました。

🔍 「聞く力」を高めるために 🔍

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」という設問に対して、肯定的な答えをしている子の割合が、小中学校共に全国より低い結果が出ました。他人の意見を聞くことへの姿勢が、活用力をみる問題の結果に関連しているという分析もあります。3月に改訂された指導要領では、これまでの実践や蓄積を活かした上で、道徳教育の充実や体験活動を重視する等の方針があげられています。そういった活動のあらゆる場面では、周囲の人とのコミュニケーション力が必要になります。人とのコミュニケーションをとる上でも欠かせない、「聞く力」を高めるための方法について、今回は考えてみましょう。

「聞く力」は集中力で決まる

誰かの話を聞くときにメモをとりながら聞く人は多いです。振り返りをするときには有効ですが、メモをとることに夢中になって、話を聞き漏らしたりすることがあります。またメモしたことで安心して、まとめたような気持ちになります。

ときには人の話をメモなしで集中して聞き、その後、思い出しながら書くことで、整理していく練習をしてみましょう。そして、そのとき気づいたことをまとめてみましょう。聞くときは集中して「聞く」、書くときは集中して「書く」というトレーニングを継続することでメリハリがつき、集中して「聞く力」が養われていきます。また気づきを持つことで、人の話を聞くときの、自分の新たな目標を立てることもできます。目標を持ち、それを達成することで、自信をつけていきましょう。

まずは、周囲の大人から

じっくり感じ、考えながら聞くという経験をどれくらい積んでいるかが、「聞く力」の差になります。そのためには学校や家庭で、周囲の大人が意識して子どもたちの話を聞いてあげる姿勢を持つことも大切です。「最後まで聞いてもらう」という経験を重ね、その心地よさを感じてもらうことで、子どもたちの「聞く力」やコミュニケーション力は、着実についていくと考えられます。

平成29年度(2017年度)箕面子どもステップアップ調査

体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析について

1 実施の経過

平成21年度に実施され、全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、本市の子どもの体力が全国的な状況において課題があることが明らかになりました。

そこで、平成24年度より継続的に子どもの体力状況を把握し、本市の体力向上の取組に生かしていくために、市内の公立小中学校（小学校12校、中学校6校、小中一貫校2校）のすべての児童生徒を対象とする「体力・運動能力、運動習慣等調査」を行っています。

2 調査の目的

- (1)教育委員会は、本市の子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校は、自校の子どもの体力・運動能力、運動習慣の状況を把握し、体育・健康に関する指導の工夫改善に役立てるとともに、就学前を含めて中学校区の子どもの体力向上の取組に活かす。
- (3)上記(1)(2)の取組をとおして、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

3 調査の対象

箕面市立小学校1年～6年 中学校1～3年

4 調査内容

- (1)児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査

*1

校種	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
握力					○	○	○	○	○
上体起こし					○	○	○	○	○
長座体前屈					○	○	○	○	○
反復横とび				○	○	○	○	○	○
20mシャトルラン				○	○	○	○	○	○
50m 走	○	○	○	○	○	○	○	○	○
立ち幅とび	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ボール投げ *1	○	○	○	○	○	○	○	○	○

小学校は「ソフトボール投げ」、中学校は「ハンドボール投げ」

イ アンケート調査

運動習慣、生活習慣、食習慣等に関するアンケート調査

(2) 学校に対する質問紙調査

5 参加人数

小学校1～6年	男子 4,363人	女子 4,016人	計	8,379人
中学校1～3年	男子 1,784人	女子 1,648人	計	3,432人
合計	男子 6,147人	女子 5,664人	計	11,811人

6 留意点

全学年とも業者テストを使用し、平成27年度（2015年度）国の平均、平成28年度（2016年度）府の平均と比較して分析を行う。

7 公表の目的

本市の教育及び教育施策における子どもの体力向上の取組の成果と課題をできるだけわかりやすく、市民や保護者へ説明することにより、地域・家庭の方々の学校教育への理解と信頼を得るとともに、子どもの体力向上へ向けて連携した取組につなげる。

8 公表の方法

- (1) 本市の調査結果や分析結果については、数値等を活用し文書等により説明する。
- (2) 学校間の過度の競争等につながるおそれのある公表は行わない。
- (3) 各学校においては、自校の調査結果や分析結果を文書等により説明する。

9 公表の手段

- (1) 教育委員会においては、
教育委員会ホームページ
- (2) 各学校においては、
 - ①各校の実情に応じて「学校（学年）だより」や「学校ホームページ」などで説明
 - ②学校協議会、懇談会などで説明

平成29年度(2017年度)箕面市平均／全国平均 記録一覧

単位	握力 kg	上体起こし 回	長座体前屈 cm	反復横跳び 回	20mシャトルラン 回	50m走 秒	全国平均以上	箕面／全国
							立ち幅跳び m	ボール投げ m
小1男子						11.8/11.4	109.6/114.7	7.8/8.6
小1女子						12.0/11.7	102.2/107.3	5.5/5.8
小2男子						10.8/10.7	122.7/124.3	11.2/12.0
小2女子						11.1/10.9	115.8/117.1	7.2/7.6
小3男子						10.2/10.0	139.3/136.8	14.6/16.2
小3女子						10.5/10.3	131.1/128.6	9.1/9.8
小4男子				35.0/39.5	42.3/47.1	9.7/9.6	144.8/144.5	18.0/20.2
小4女子				33.4/38.1	33.2/36.7	10.1/9.9	137.6/136.7	11.2/12.0
小5男子	16.4/17.1	18.6/20.6	33.7/33.5	40.2/43.8	49.0/56.5	9.3/9.3	152.1/154.3	20.9/23.9
小5女子	15.9/16.6	17.7/19.2	37.9/38.4	38.3/41.8	38.2/44.5	9.6/9.5	146.9/147.4	12.9/14.4
小6男子	19.3/20.3	20.3/21.9	35.9/35.6	42.6/46.7	56.5/64.7	9.0/8.8	161.7/166.3	25.6/27.4
小6女子	19.2/19.7	19.4/20.1	41.1/40.4	41.0/43.9	46.0/50.8	9.3/9.1	155.0/156.9	15.1/16.5
中1男子	22.1/23.9	24.9/24.3	38.2/39.5	48.1/49.8	68.8/72.2	8.6/8.5	172.6/179.8	16.8/18.5
中1女子	20.8/21.6	20.8/21.2	41.9/43.1	44.4/45.7	50.3/52.7	9.1/9.0	159.0/164.5	10.7/12.0
中2男子	27.3/29.7	28.2/28.1	40.2/43.8	52.1/53.3	88.4/90.3	7.9/7.8	188.4/197.0	19.6/21.3
中2女子	23.1/24.0	24.8/24.0	46.0/45.4	46.8/47.4	61.0/61.1	8.7/8.7	166.6/171.3	11.9/13.4
中3男子	32.5/35.1	30.3/30.3	45.9/46.6	53.9/56.0	93.1/96.0	7.6/7.5	204.9/214.0	21.9/24.2
中3女子	24.5/25.5	24.7/25.2	47.4/48.0	47.1/48.8	60.7/61.3	8.7/8.6	167.6/175.7	13.3/14.5

平成29年度(2017年度)箕面体力・運動能力、運動習慣等調査 偏差値一覧

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
小1男子						46.0▲	47.0▲	47.5▲
小1女子						46.9▲	46.9▲	48.3△
小2男子						48.5△	49.0△	48.1△
小2女子						48.1▲	49.2△	48.3△
小3男子						48.0△	51.4	47.3▲
小3女子						47.6▲	51.5	47.8▲
小4男子				44.1▲	47.5▲	48.3△	50.1	47.0▲
小4女子				42.8▲	47.6▲	48.2△	50.5	47.9▲
小5男子	47.9▲	46.4▲	50.3	44.8▲	46.5▲	49.4△	48.9△	46.2▲
小5女子	48.2△	46.7▲	49.4△	44.4▲	46.3▲	49.2△	49.8△	46.6▲
小6男子	48.0△	47.2▲	50.3	43.4▲	46.3▲	46.4▲	47.9▲	48.0△
小6女子	48.8△	48.6△	50.9	44.9▲	47.4▲	48.2△	49.1△	47.6▲
中1男子	47.1▲	50.9	48.5△	47.3▲	48.5△	49.3△	46.9▲	47.5▲
中1女子	48.2△	49.3△	48.6△	47.5▲	48.6△	48.7△	47.2▲	46.0▲
中2男子	46.6▲	50.2	46.3▲	48.1△	49.1△	48.5△	45.6▲	46.6▲
中2女子	47.9▲	51.4	50.6	49.1△	49.9△	50.3	47.9▲	46.4▲
中3男子	46.4▲	50.0	49.3△	46.7▲	48.7△	47.0▲	46.1▲	46.0▲
中3女子	47.6▲	49.1△	49.4△	47.1▲	49.7△	49.4△	46.3▲	47.4▲

※全国平均を基準にした偏差値

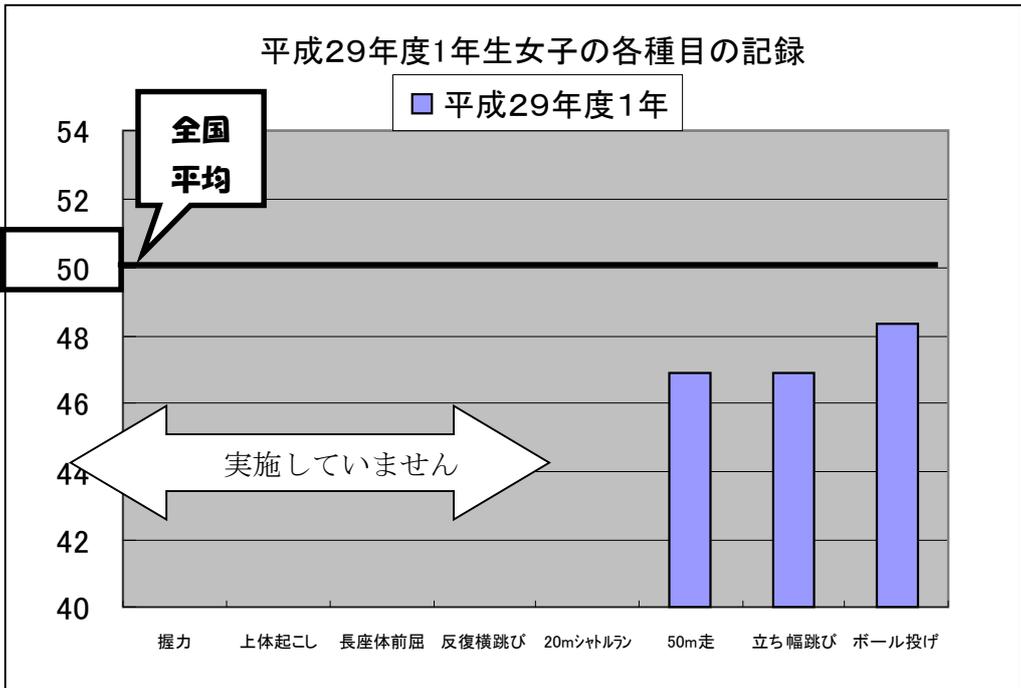
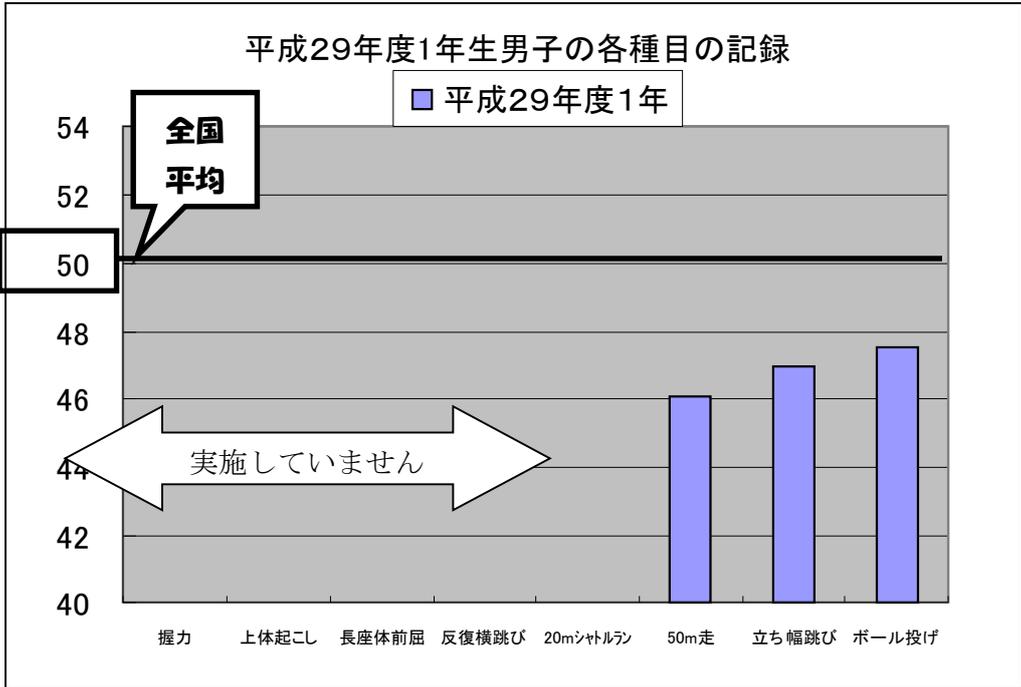
※数字および記号の表記（50以上…白抜き 48以上～50未満…△ 48未満…▲）

【概要】

- ◆ 小学校では、3・4年生男子女子の「立ち幅跳び」と5年生男子と6年生男子女子の「長座体前屈」で全国平均を上回っています。
- ◆ 中学校では、1年生男子、2年生男子女子、3年生男子の「上体起こし」、2年生女子の「長座体前屈」、「50m走」で全国平均を上回っています。
- ◆ 小・中学校とも、「反復横跳び」「ボール投げ」が全国平均より大きく下回っています。また、小学校では「上体起こし」「20mシャトルラン」、中学校では「握力」「立ち幅跳び」が課題となっています。

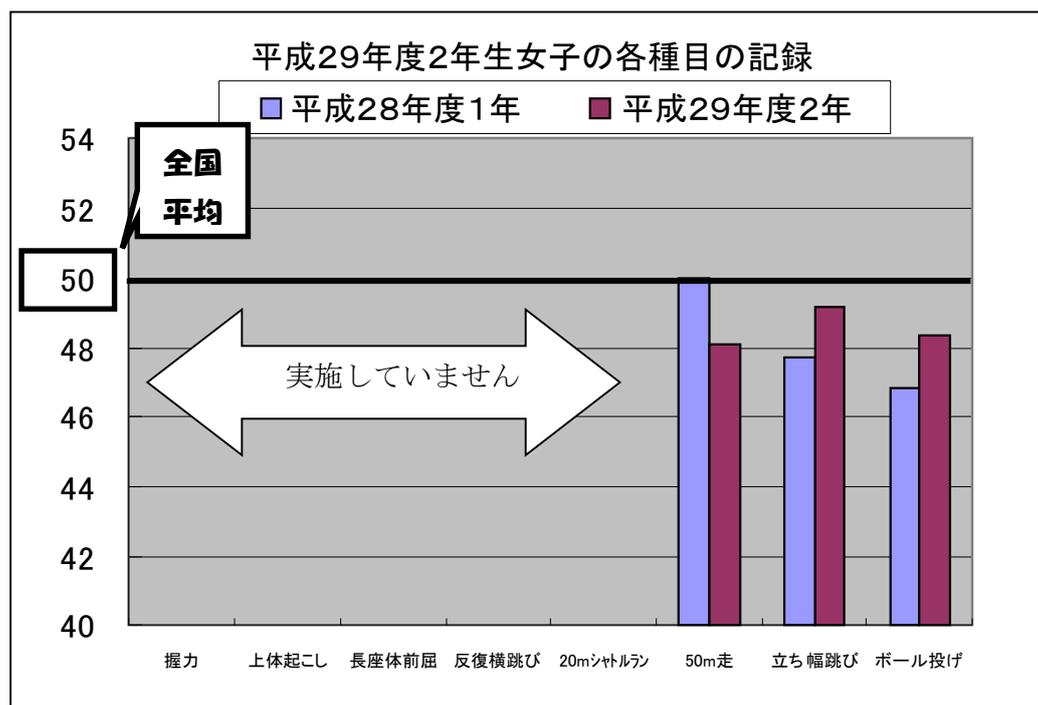
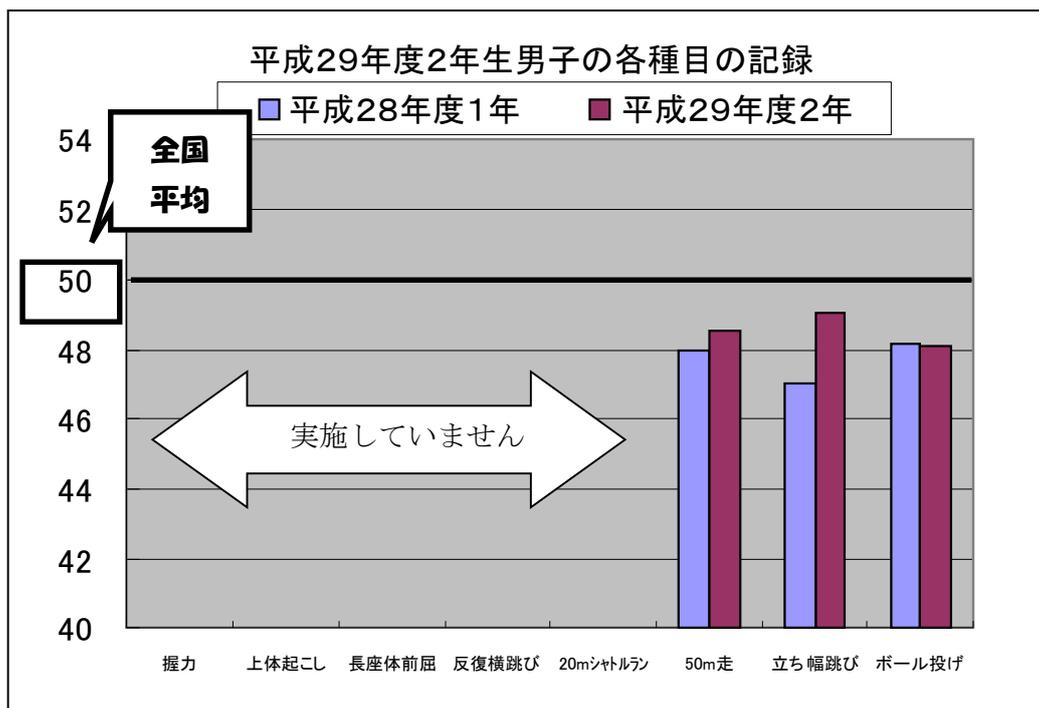
1年(小1)

各種目結果の学年別経年比較



1年生は、初めて体力運動能力調査に取り組みました。男子女子ともに、全3種目において、全国平均値を下回っています。
また、「50m走」「立ち幅跳び」については、男女ともに全国平均値との差が大きく課題であることがわかります。
就学前から、幼稚園・保育所等とも連携し体力を高める運動に計画的に取り組む必要があります。

各種目結果の学年別経年比較

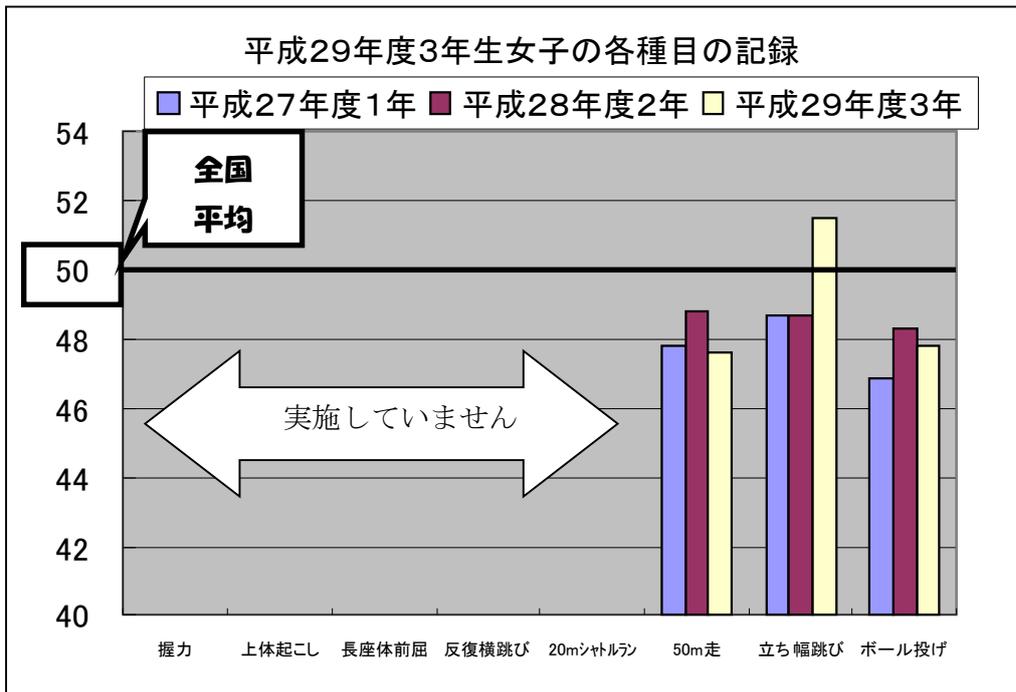
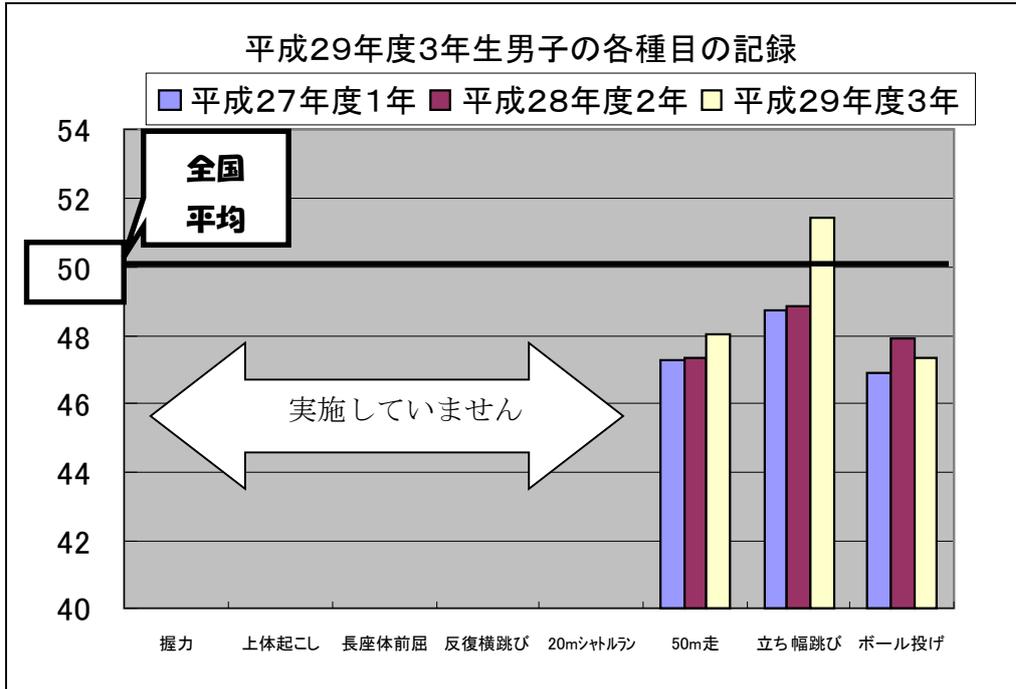


2年生男女ともに全3種目において、全国平均値を下回り、全種目での体力向上が今後の課題です。

男子の「50m走」「立ち幅跳び」、女子の「立ち幅跳び」「ボール投げ」は、昨年度の記録を上回り、伸びが見られます。

3年(小3)

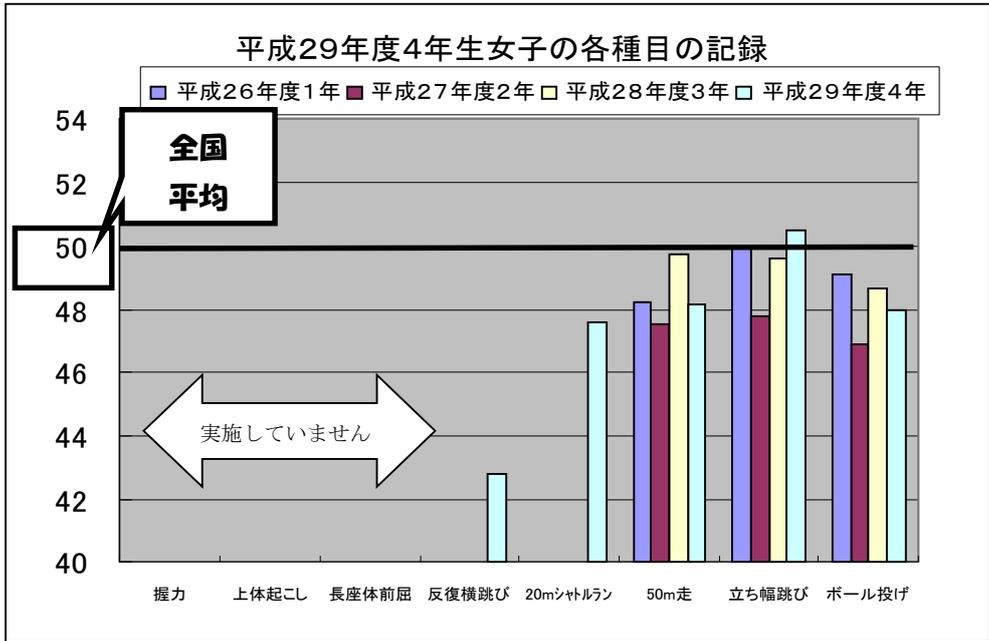
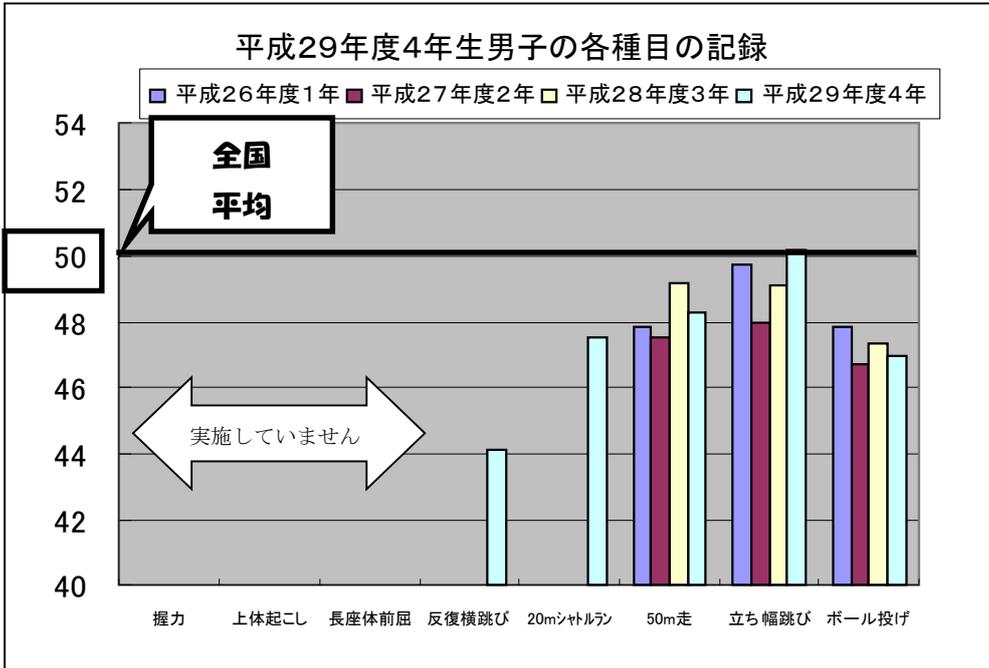
各種目結果の学年別経年比較



3年生男女ともに、「立ち幅跳び」において全国平均値を上回りました。
しかし、「50m走」「ボール投げ」は、男子女子ともに全国平均値との差が大きく、依然として課題が継続しています。

4年(小4)

各種目結果の学年別経年比較

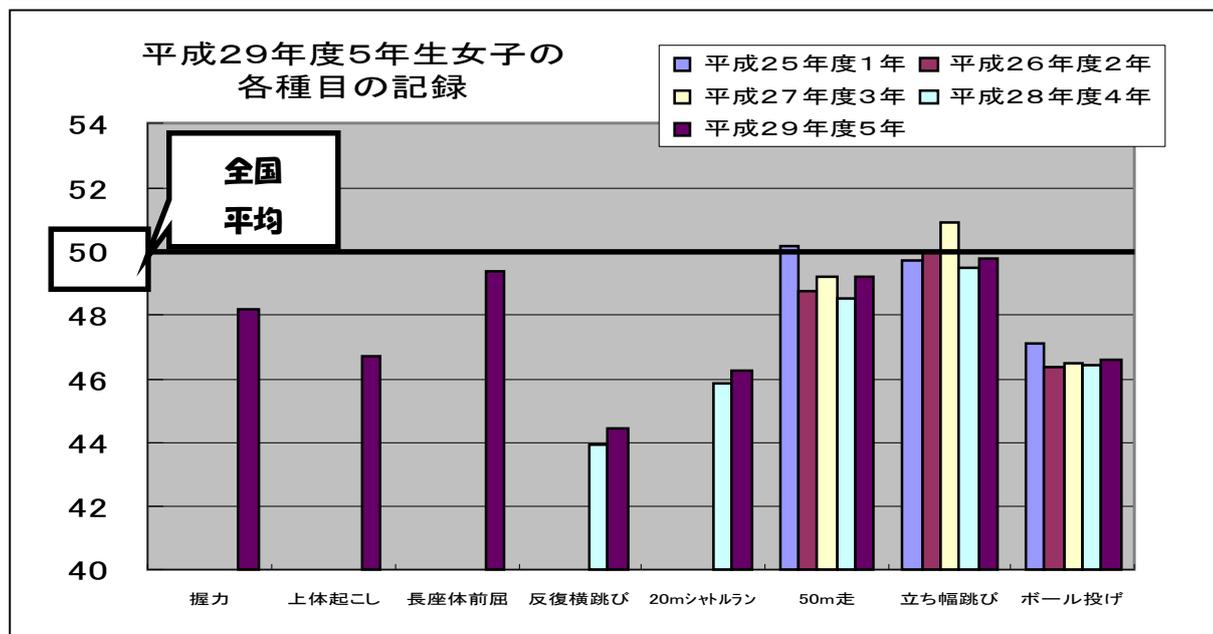
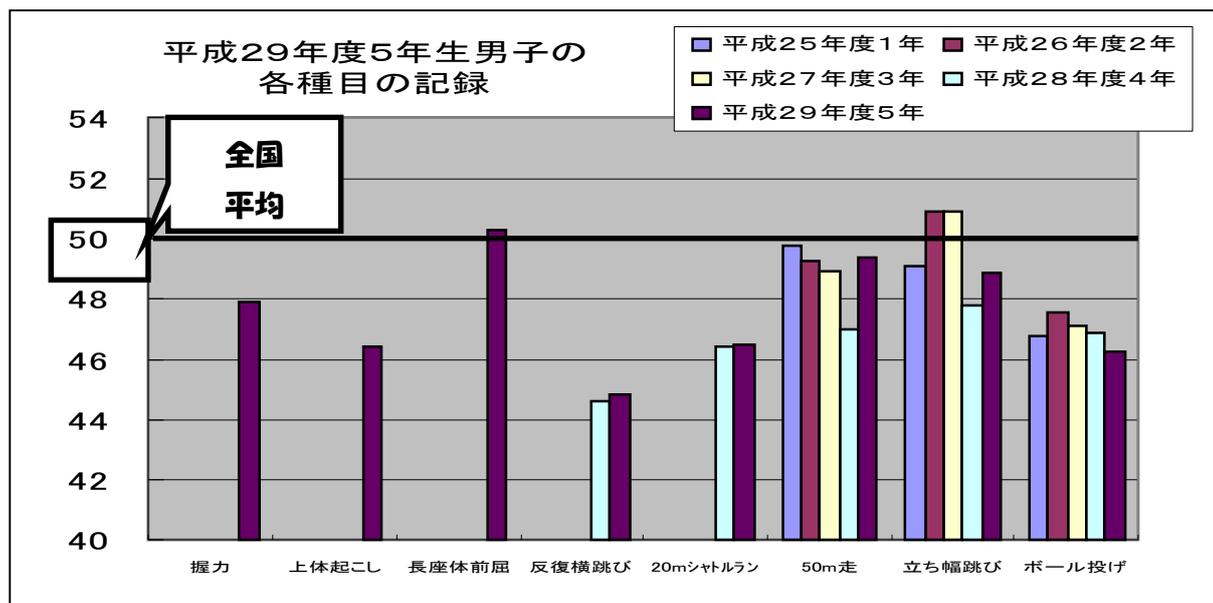


4年生男女ともに、「立ち幅跳び」において全国平均値を上回りました。
 しかし、男女とも「立ち幅跳び」以外の4種目において全国平均値を下回っています。
 特に、男女とも「反復横跳び」は、全国平均値を大きく下回りました。また、男女ともに、「50m走」「ボール投げ」は、3年生の時の結果と比較すると、下回っています。

※「反復横とび」「20mシャトルラン」は、4年生から実施する種目です。

5年(小5)

各種目結果の学年別経年比較



初めて実施した「長座体前屈」では男子で全国平均値を上回りましたが、「握力」「上体起こし」では、全国平均値と大きな差が見られました。

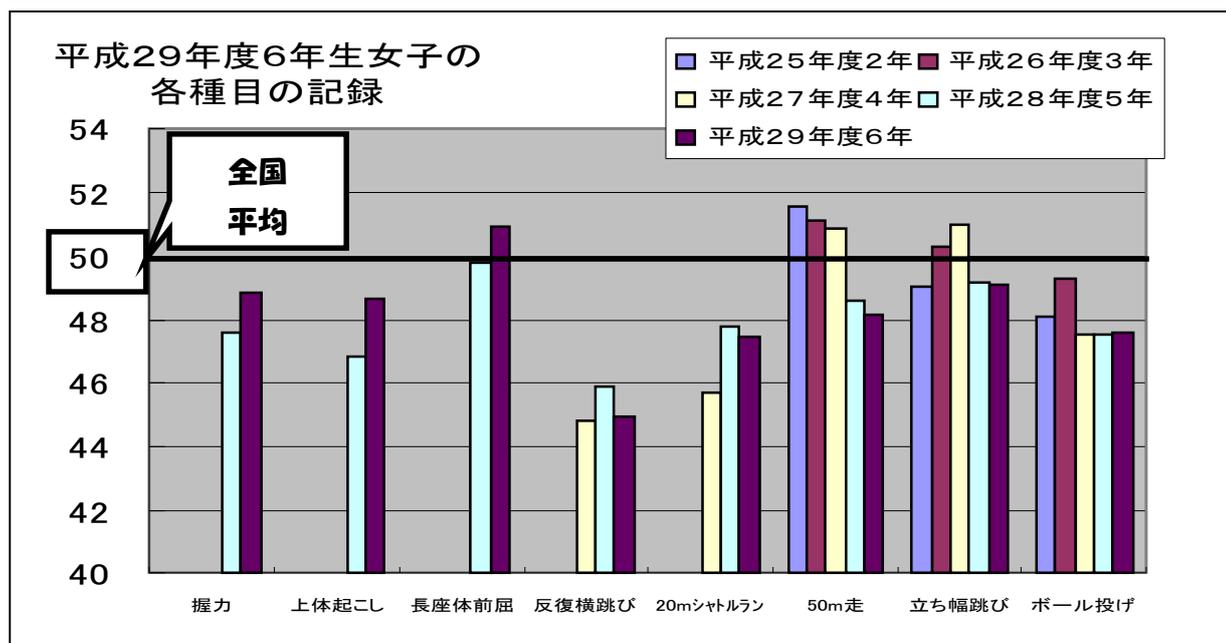
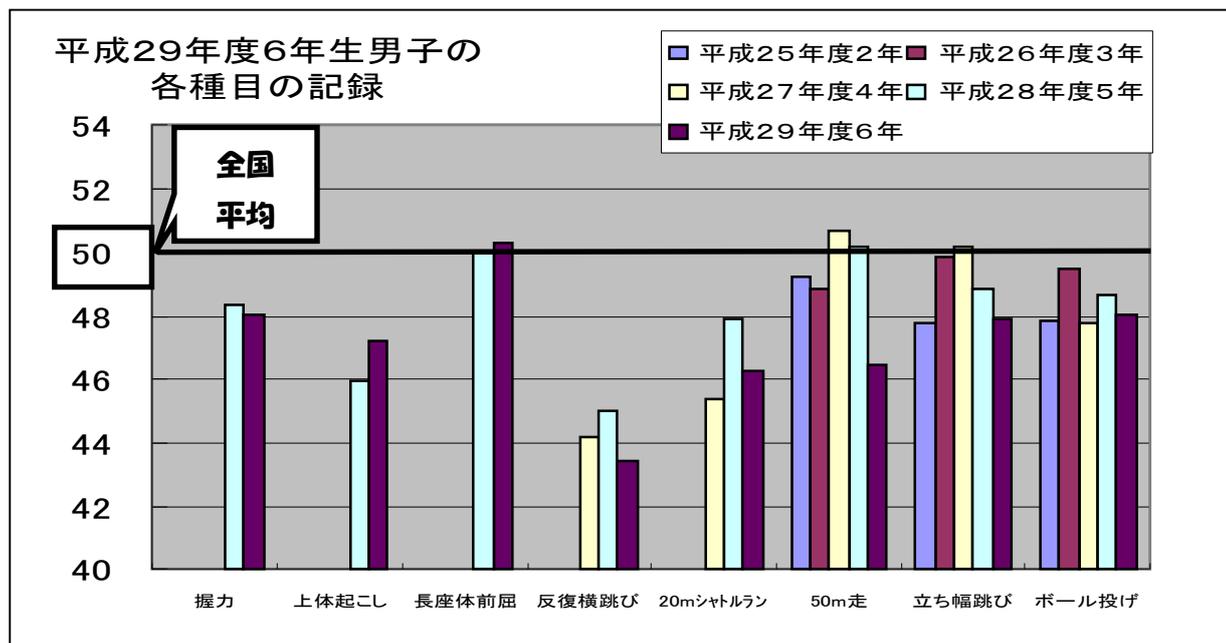
昨年度から実施の「反復横跳び」「20mシャトルラン」では、男女ともやや記録が伸びていますが、全国平均値との差はまだ開いています。

「50m走」「立ち幅跳び」においては、今年度男女とも伸びがみられ、全国平均値まであと少しです。しかし、「ボール投げ」は、全国平均値との差が5年間縮まっておらず、依然として課題が継続しています。

※「握力」「上体起こし」「長座体前屈」は5年生から実施する種目です。

6年(小6)

各種目結果の学年別経年比較

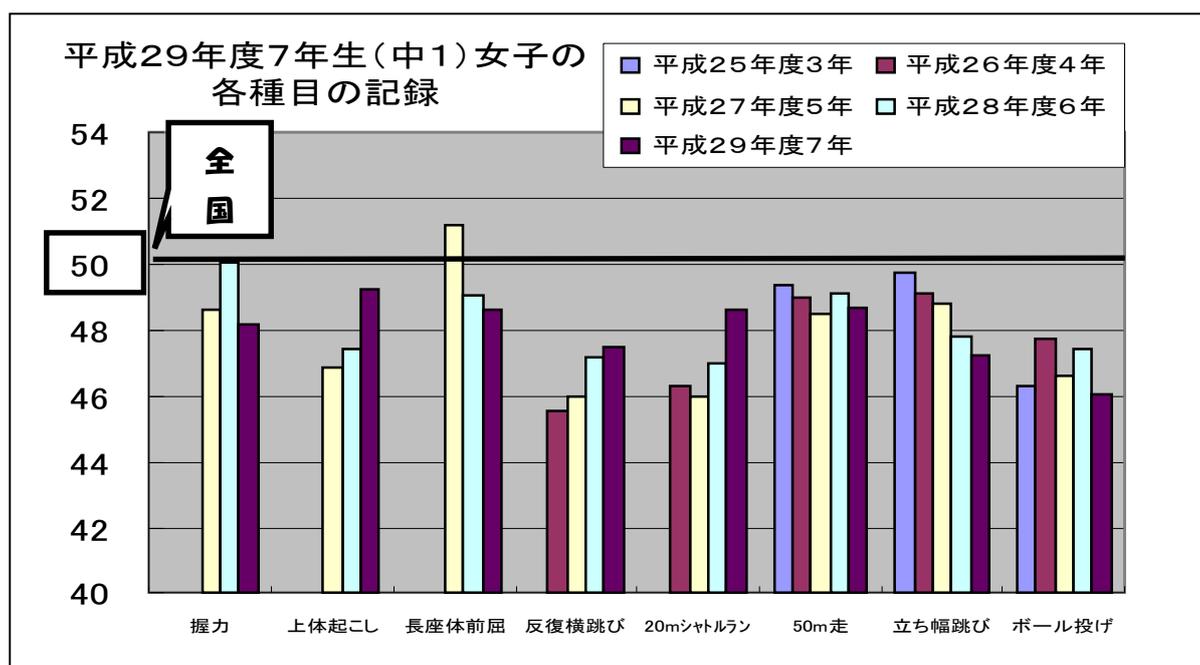
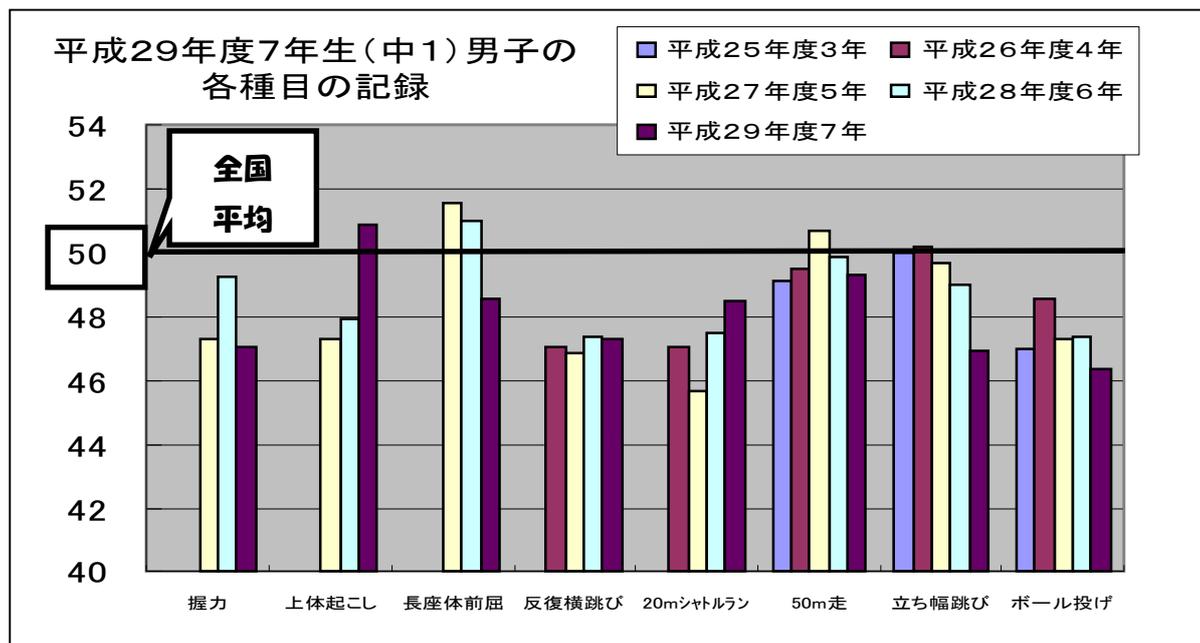


男女とも「長座体前屈」は、全国平均値を上回りました。男子の「上体起こし」、女子の「握力」「上体起こし」でも伸びがみられます。

しかし、男女とも、「長座体前屈」以外の7種目において全国平均値を下回っています。全体的に体力の課題がみられます。

特に、男女とも「反復横跳び」においては、全国平均値と大きな開きがあり、大きな課題です。また、男子の「20mシャトルラン」「50m走」も全国平均値との差が開きました。少しでも全国平均値に近づけていきたいところです。

各種目結果の学年別経年比較

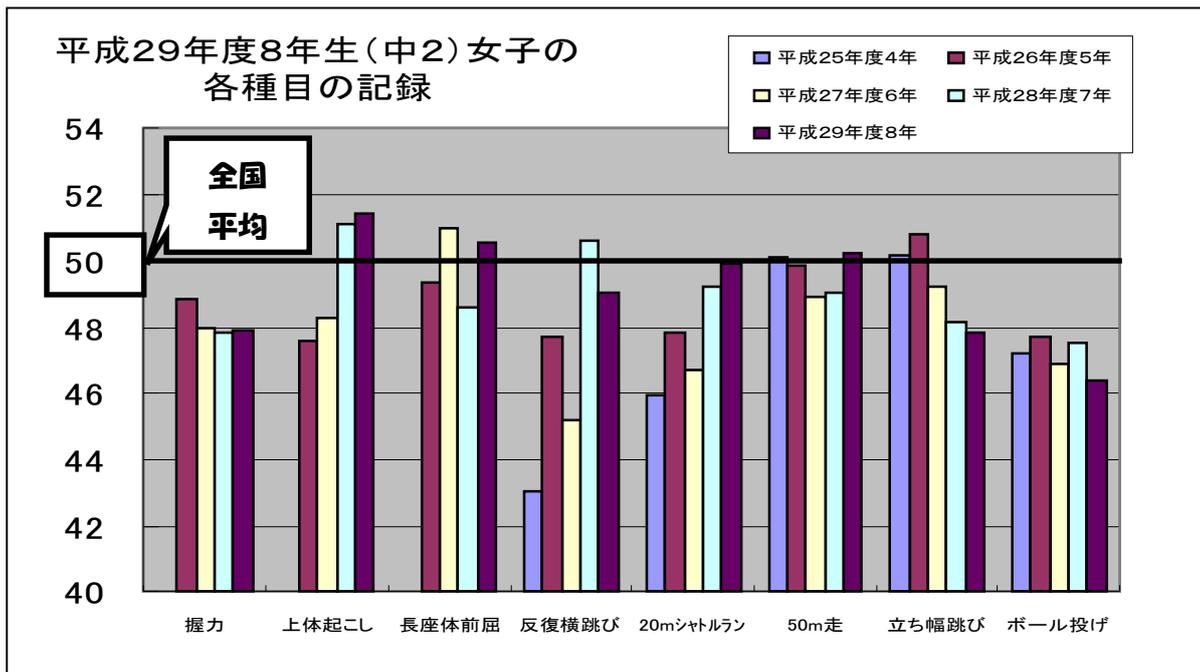
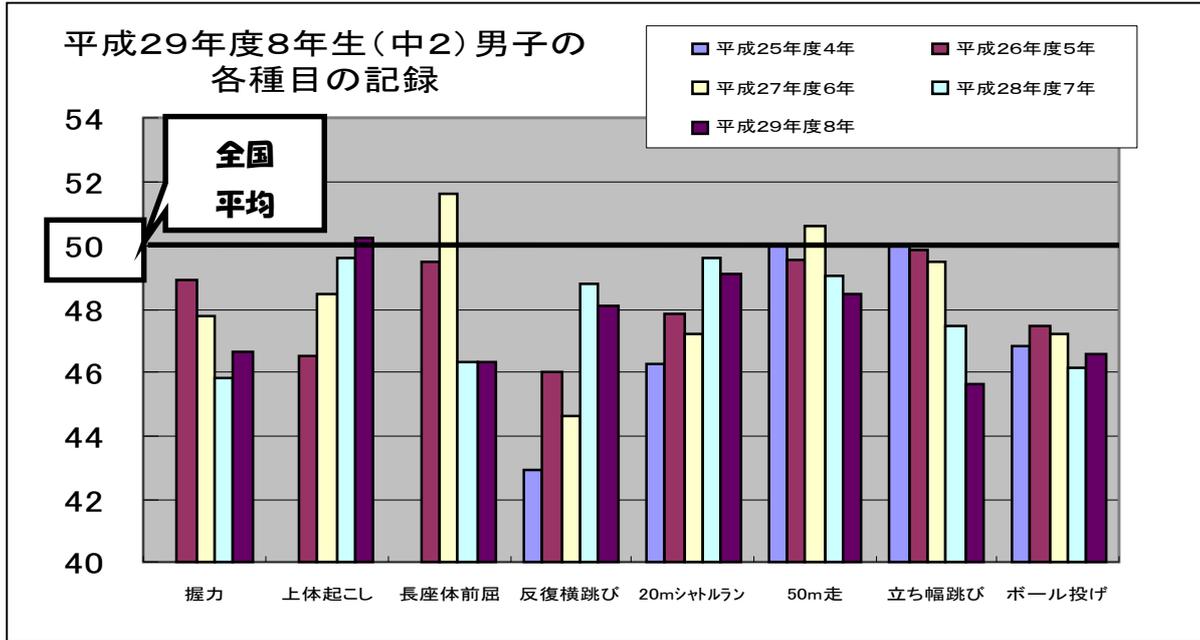


男子の「上体起こし」は大きく伸び、全国平均値を上回りました。

中学生になり、男女の「上体起こし」「20mシャトルラン」と女子の「反復横跳び」では伸びがみられますが、その他の種目においては、6年生のときの結果と比較すると、下回っています。

特に、「ボール投げ」は、男女ともに依然全国平均値との差がみられ課題といえます。また、男女とも「長座体前屈」「立ち幅跳び」など低下傾向な種目もあり気になります。

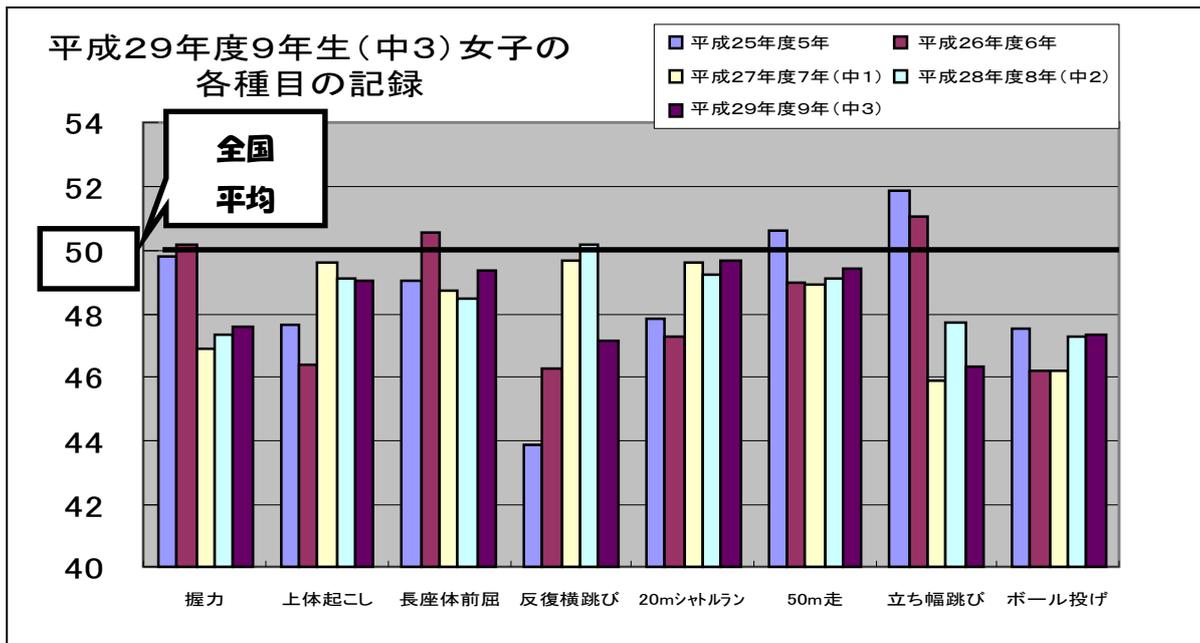
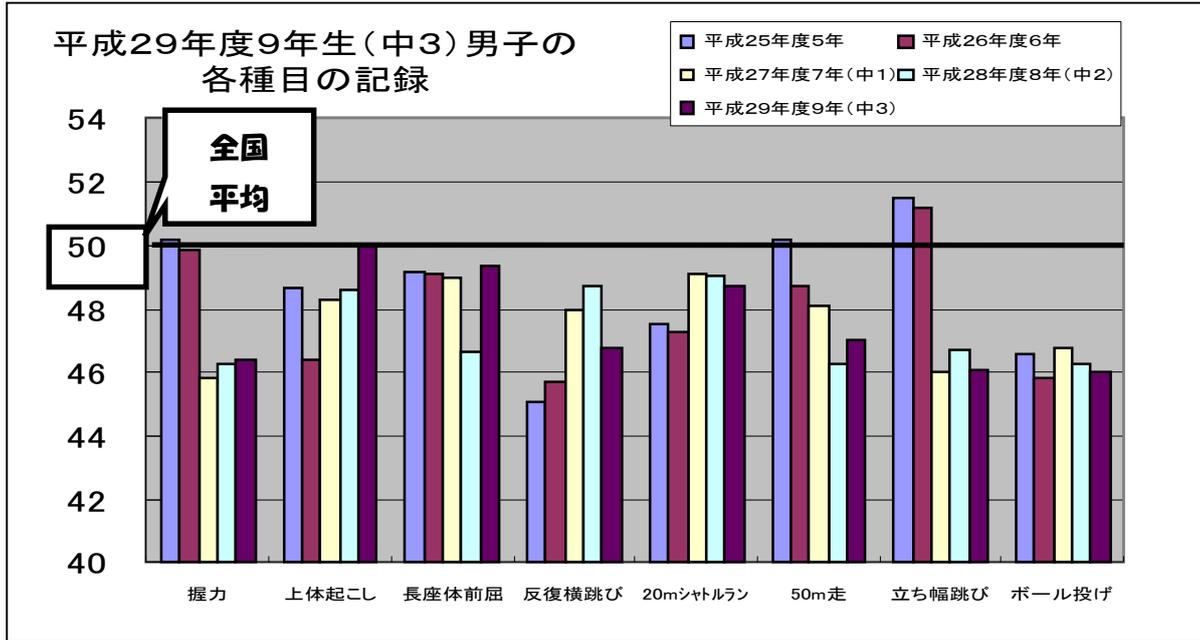
各種目結果の学年別経年比較



男女の、「上体起こし」と女子の「長座体前屈」「50m走」において、全国平均値を上回りました。男子の「握力」「ボール投げ」と女子の「握力」「20mシャトルラン」も記録が上昇傾向で、伸びがみられます。

しかし、男子の「握力」「長座体前屈」「立ち幅跳び」「ボール投げ」、女子の「握力」「立ち幅跳び」「ボール投げ」など、全国平均値との差が大きい種目があり、依然として課題がみられます。

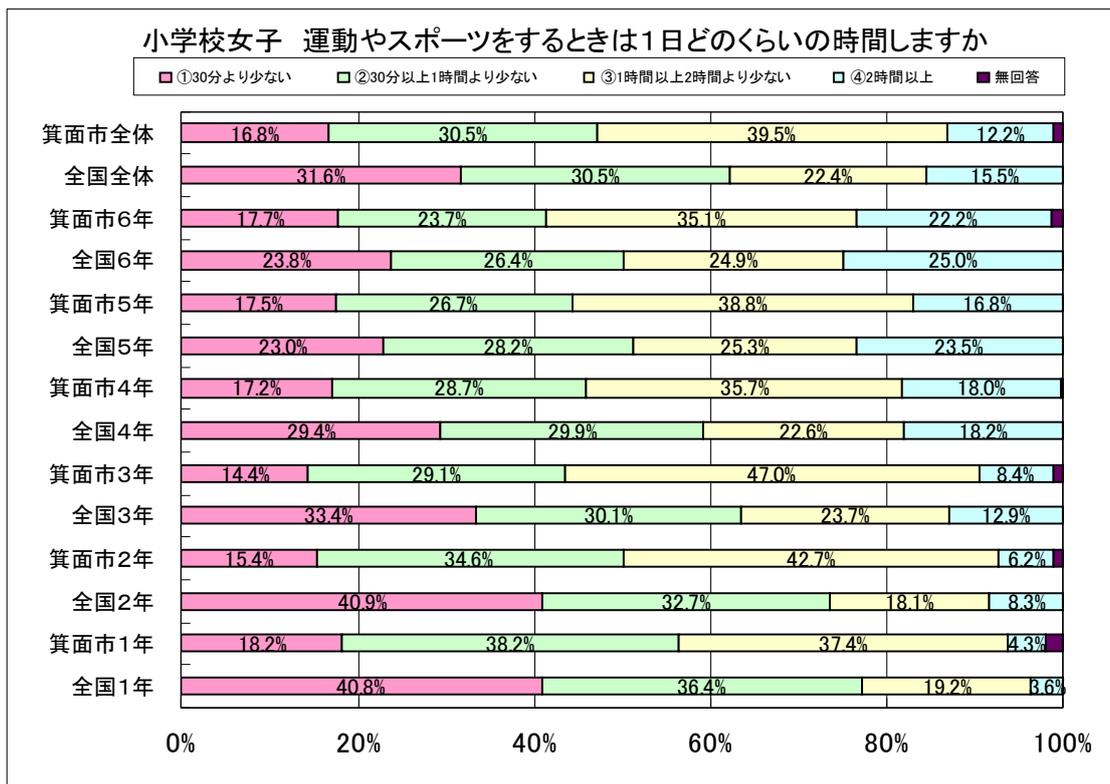
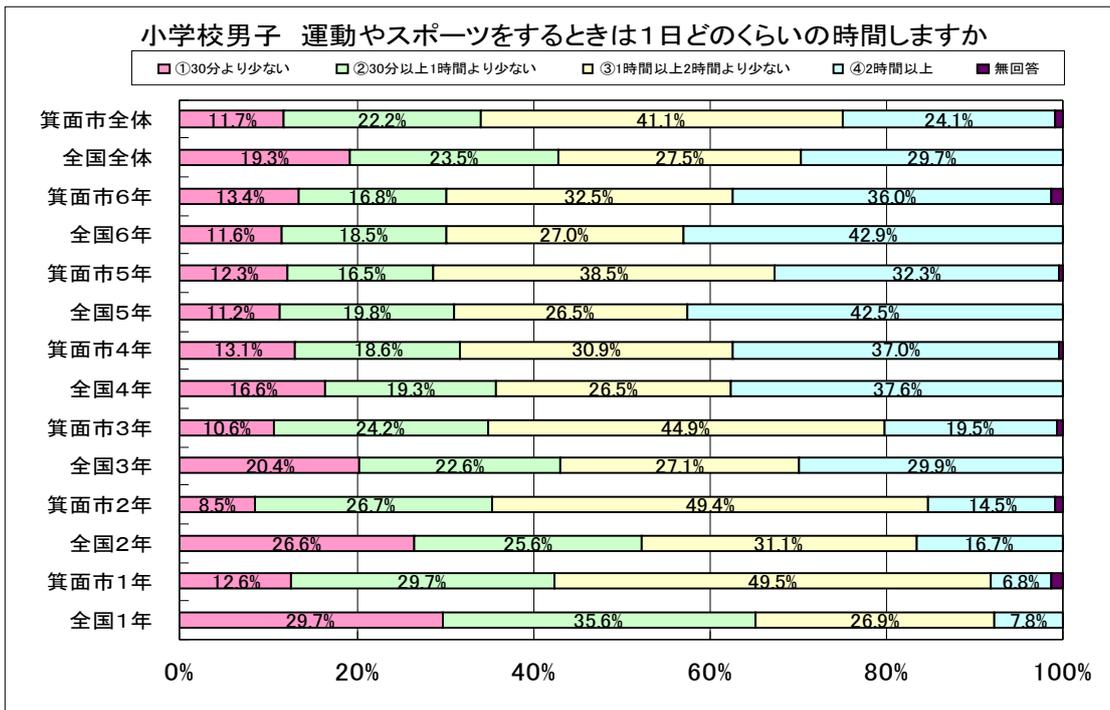
各種目結果の学年別経年比較



男子の「上体起こし」で、全国平均値となりましたが、男女とも他の種目においては、全国平均値を下回りました。

昨年度と比較すると、男子は4種目で、女子は5種目で記録に伸びがみられました。また、男女の「長座体前屈」と女子の「20mシャトルラン」「50m走」で、全国平均値に近づきました。しかし、男女とも7年生、8年生の時に課題であった「握力」「立ち幅跳び」「ボール投げ」は依然として全国平均値とは大きな差がみられ、「反復横跳び」

平成29年度 運動習慣等調査の結果から

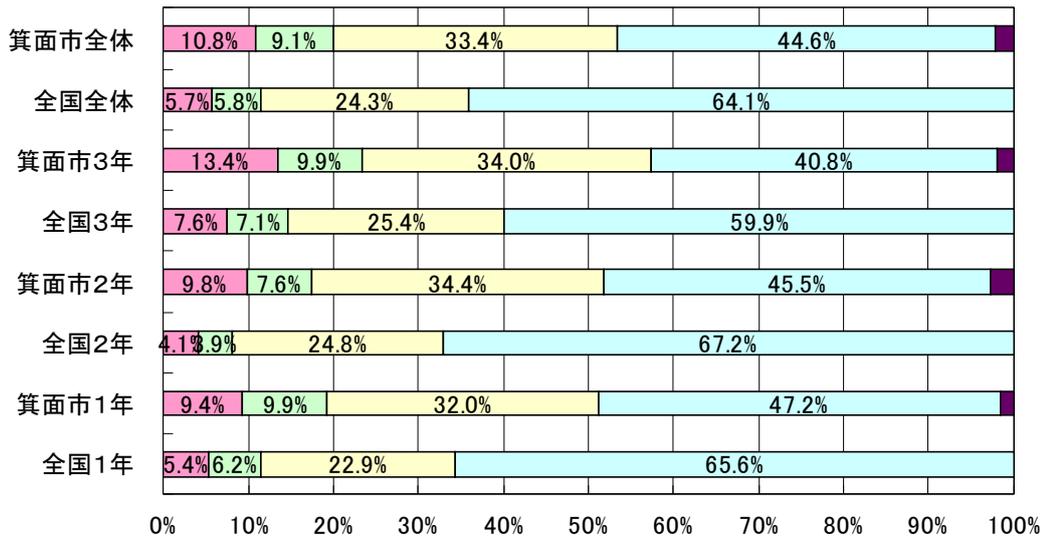


小学生では、箕面市全体で「1日に運動やスポーツをする時間が30分より少ない」子どもたちの割合は全国より少なく、特に、1～3年生の低学年で低い割合となっています。しかし、6年生の男子は全国の6年生と比較しても割合が高く、昨年度の割合よりも増加しています。

また、「1時間以上運動やスポーツをする時間がある」子どもたちの割合は、どの学年でも男女とも全国と比べて多くなっています。日頃から、始業前や休み時間や放課後を利用

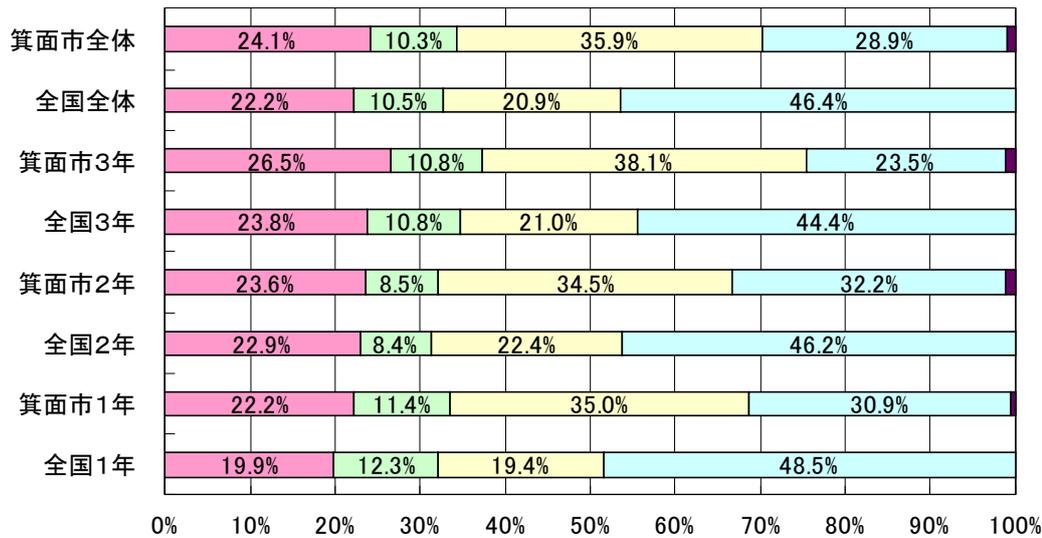
中学校男子 1日の運動・スポーツの実施時間(授業を除く)

■ ①30分未満 ■ ②30分以上1時間未満 ■ ③1時間以上2時間未満 ■ ④2時間以上 ■ 無回答



中学校女子 1日の運動・スポーツの実施時間(授業を除く)

■ ①30分未満 ■ ②30分以上1時間未満 ■ ③1時間以上2時間未満 ■ ④2時間以上 ■ 無回答



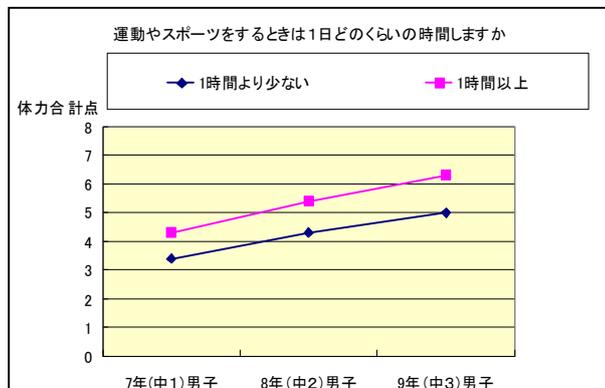
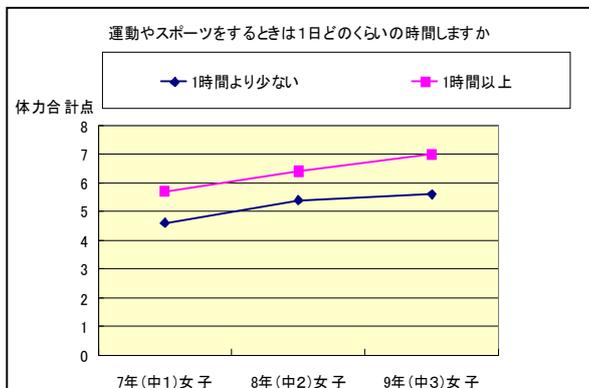
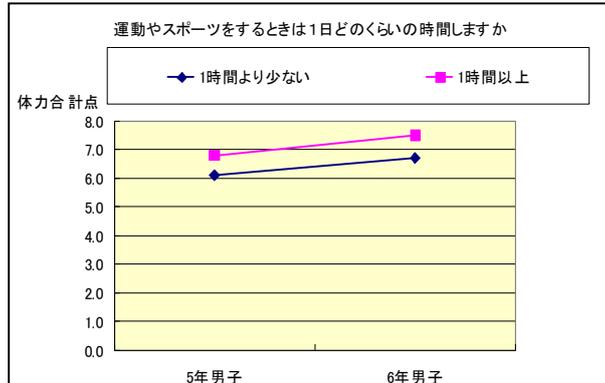
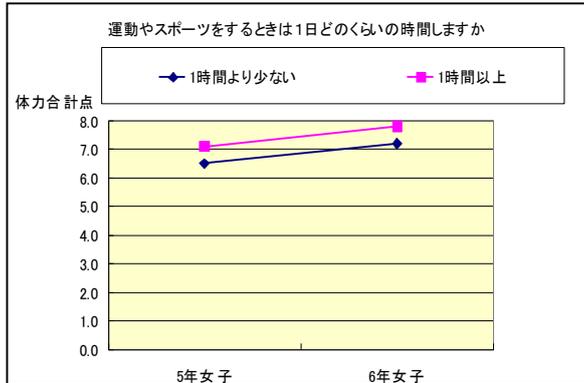
中学男子では、1日に運動やスポーツをする時間が「30分未満」の子どもたちの割合が、どの学年でも全国より高くなっています。また、「2時間以上運動やスポーツをする」子どもたちの割合でも、全国を大きく下回っています。

中学女子でも、1日に運動やスポーツをする時間が「30分未満」の子どもたちの割合が、どの学年でもやや高い割合ですが、「2時間以上運動やスポーツをする」子どもたちの割合では、全国を大きく下回っています。

中学生全体として、運動やスポーツをする時間が、全国に比べて少ない傾向にあります。

平成29年度 運動習慣等調査と体力合計点との関係

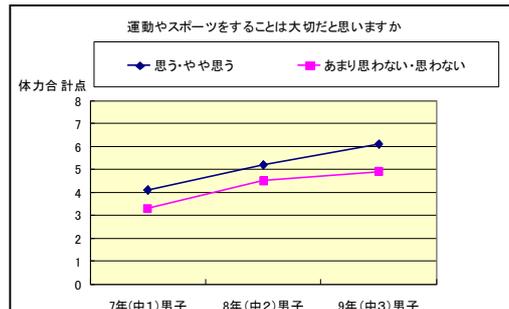
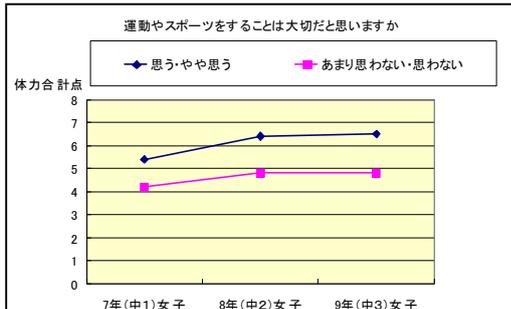
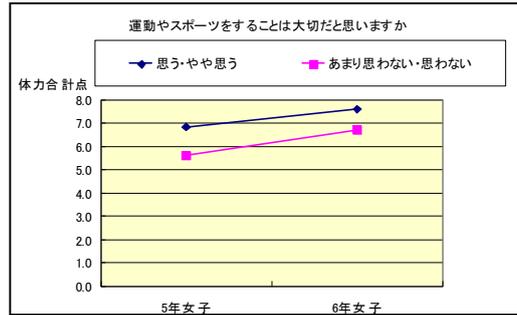
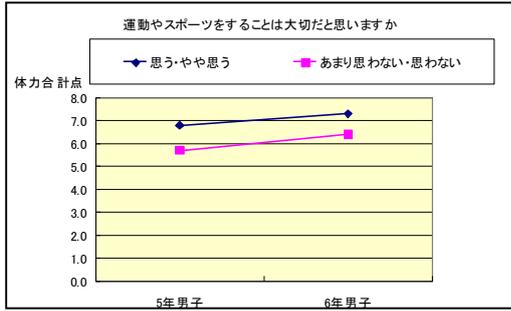
【運動やスポーツをする時間に関して】



どの学年でも、男女とも運動やスポーツを1時間以上する子どもたちの方が、運動やスポーツをする時間が1時間未満の子どもたちよりも、体力合計点が高いことがわかりました。特に中学生での差は、男女とも大きく現れています。

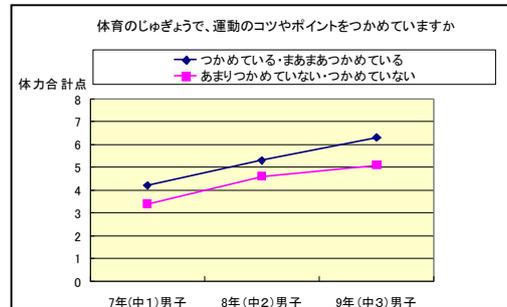
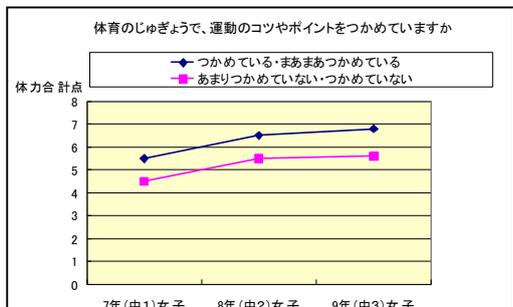
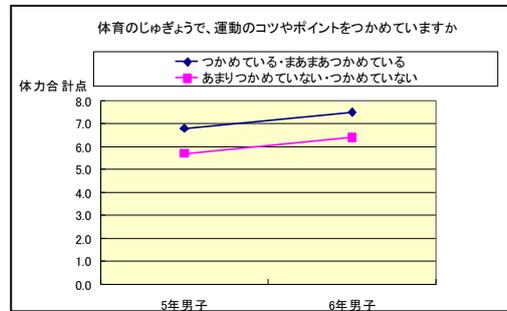
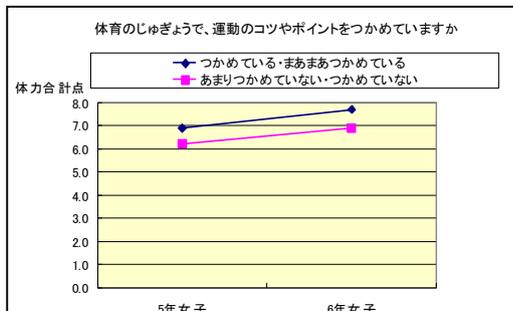
小学校では、朝の時間や休み時間において、運動する機会を増やす取組を実施しています。中学校では、部活動や生徒会主催のスポーツイベント（球技大会等）で、運動やスポーツをする機会を増やすとともに、いろいろな運動やスポーツを経験しています。

【児童生徒の運動やスポーツに対する意識に関して】



「運動やスポーツをすることが大切である」と意識している児童生徒は、意識していない児童生徒と比較して、体力合計点が毎年高くなっています。運動やスポーツをすることで、健康な生活を送れていることを自分自身でも実感できるようにしていく必要があります。

【学校での体育の授業に関して】



体育の授業でできるようになるためのコツやポイントを自分なりに理解し取り組んでいる児童生徒の体力合計点が、理解できていない児童生徒と比較して高いことがわかりました。

主体的に運動する子どもを学校・家庭・地域で育てよう！

今年度の「体力・運動能力、運動習慣等調査」において、全国平均との比較では、箕面市の小中学生の体力は、各学年で依然として下回っている種目がほとんどです。しかし、学年や男女別によっては、全国平均を上回る種目が少し増え、伸びている種目もみられます。また、「運動習慣や健康意識についての調査」から、以下のこともわかりました。

- ・小学生全学年において「**1日の運動時間が1時間以上**」が**全国と比較しても多い**！
しかし、中学生は「**2時間以上運動やスポーツをする**」ことは、**全国に比べて少ない**！
- ・「**運動やスポーツは大切**」という**主体的に運動する**小中学生は、**体力合計点が高い**！
- ・自ら「**体育の授業で運動のコツやポイントをつかむ**」小中学生は**体力合計点が高い**！



学校では主体的な体力向上の取組を実施！

各学校では、体力調査の結果からみえる課題をふまえ、体育科の授業改善を進め、体力向上に取り組んでいます。各学年の経年比較からもその結果が表れている種目もあります。今後も、子どもたちが主体的に運動に取り組み、体力が向上する取組を実施していきます。また、初めて実施される種目の結果が低い傾向がみられます。原因として、運動する機会の減少やさまざまな運動や動きの経験不足等が考えられます。いろいろな運動体験やチャレンジする機会も増やしていきます。

また、運動習慣等調査と体力合計点の関係で、運動のコツやポイントをつかめている子どもたちは体力合計点が高いことから、子どもたち自身が主体的に学ぶ姿勢を大切に、自分自身で「**できた!**」「**わかった!**」と思える体育の授業を実施していきます。ただ、学校で運動やスポーツに取り組める時間には限りがありますので、学校からの帰宅後や休みの日などに、家庭や地域の中でも運動する機会の確保が大切となってきます。



大人も子どもも地域もいっしょに すすんで

運動やスポーツをすることを楽しみましょう！

運動やスポーツに興味関心があり、運動やスポーツが「**好き! 楽しい!**」と思える児童生徒は、意欲的に取り組んでいます。東京オリンピック・パラリンピック関連の話題も増えてきました。ご家庭でも、運動やスポーツの話題に積極的に触れたり、ご家族と一緒に運動したりする機会を積極的に設けましょう！また、地域においては、各地域でおこなわれている運動・スポーツの行事を広く周知していただき、子どもたちといっしょにぜひ参加しましょう！

さらに、就学前からさまざまな「運動遊び」を通して、豊かな運動経験を積むことが、それ以降の**体力アップ!**につながることもわかっています。各中学校区内では幼稚園や保育所とも連携をおこない、体力向上の取組を進めていきます。